

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	スーパー（店員）	・当店でしか利用できない買物券の販売が好調であることから、今後の売上の増加が見込まれる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・定額給付金の給付により、5月中旬から衣料も含めた複数の業種で売上が増加することが見込まれる。また、プレミアム付き商品券の発売により、比較的大きな消費も見込まれる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・実際に定額給付金を給付したという新聞記事等を見ると明るいムードになるため、大きくは期待できないかもしれないが、少しは良くなるのではないかとみている。
		スーパー（店長）	・わずかずつではあるが、客単価が前年の水準に近づいていることから、今後についてはやや良くなる。全体の売上は厳しいが、以前と比べると、客の動き、買い方は間違いなく底を打ったとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数も客単価も安定して推移している。たばこ以外の商品も前年を上回っており、財布のひもが固くなっているという気配は感じられない。相変わらず客の低価格志向はみられるが、安ければ良いというものではなく、質と価格のバランスをみている。
		家電量販店（店長）	・追加経済対策の効果が少なからず出てくることが見込まれる。
		家電量販店（店員）	・5月15日からエコポイントの付与が始まるため、今後の販売量の増加が期待できる。
		家電量販店（地区統括部長）	・エコポイントの付与にはっきりとした指針が出たことから、これまで買い控えをしていた消費者の財布のひもが、若干緩んでくる。
		乗用車販売店（営業担当）	・追加経済対策による環境対応車購入時の減税に加えて、車両乗換え時のスクラップ補助金の支給も見込まれることから、後は市場がやや活性化する。
		一般レストラン（スタッフ）	・前年は北海道洞爺湖サミットの影響で観光客の入込が減少したが、今年は回復することが見込まれる。実際に、5～6月の予約は前年を上回って推移している。
		観光型ホテル（経営者）	・追加経済対策の効果が徐々に始まることが期待される。また、直近の経済指標が若干上向きにあり、消費意欲が回復しつつあることを感じる。
		旅行代理店（従業員）	・追加経済対策や定額給付金の効果が、旅行業界全体に行き渡ることが期待される。
		通信会社（企画担当）	・定額給付金の給付による若干の個人消費の拡大が通信サービス機器へも回ってくるが見込まれる。
		美容室（経営者）	・先行き不安が幾分解消されてきた雰囲気があるのか、現状の状況に慣れてきたのかは定かではないが、ある程度支出をしても大丈夫との意識が客に出てきており、以前よりは消費意欲が高まっているため、今後についてはやや良くなる。
		設計事務所（職員）	・景気浮揚を目指した新年度予算による建築設計業務が、半年後には一斉に発注され始めることが見込まれるため、その期待感もあって景気はやや良くなる。
		変わらない	商店街（代表者）
商店街（代表者）	・2～3月後は、バーゲン月となるが、今年の夏は気温が低いと予想されていることや現在の客の様子から、バーゲンになったからといって購買意欲が増すとは考えられない。		
商店街（代表者）	・プレミアム付き商品券に対する客の反応が、これから出てくると思われるが、効果が出るのは一部の業種だけあり、全体としてはまだまだ様子は変わらない。		
一般小売店〔酒〕（経営者）	・全体的な景気はまだ先行き不透明であるが、今月の売上が前年の約95～96%まで回復していることから、今後についても同様の状態で推移することが見込まれる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・いまだ金融市場に底を打った感がみられず、将来的にも上昇の気配がない。ここ1年のスパンでも買い控えが強くみられることから、今後2～3か月で景況感が上向くことは見込まれない。一部報道では秋以降の好転を見込む声も上がっているが、実態とはかなり乖離したコメントである。
		百貨店（売場主任）	・定額給付金の給付が始まり、その催事企画が予定されていることから、少しは期待できる。
		百貨店（販売促進担当）	・正価品よりもセール品を選ぶという客の傾向は続いている。一度、低価格のセール品を選ぶことに慣れてしまえば、物の品質と価格に対するバランス感覚が変わってくるため、少なくとも当面の間は、1年以上前の判断基準で物を買わない人が多数派であると見込まれる。
		百貨店（役員）	・景気の浮揚と消費者の行動が結び付いていないため、まだしばらくは消費者の買い控えが続く。
		スーパー（店長）	・高速道路料金引下げにより、ゴールデンウィークなどは売上への好影響を得られそうだが、夏の賞与の支給額によっては、一気に売上不振につながる事が心配される。
		家電量販店（経営者）	・今より良くなることを期待したいが、定額給付金の給付による効果についてはいまだ不透明な部分がある。
		旅行代理店（従業員）	・客の反応は良くなっているが、受注内容を見ると、単価の低い商品に流れる傾向があるため、業界内でパイを取り合う状況が今後も続く。
		タクシー運転手	・タクシーの利用動向をみると、客の利用回数、収入とも、前年を6%程度下回っており、大変厳しい状況が続いているため、今後についても変わらないまま推移する。また、利用客との会話でも、景気が悪くてどうしようもないという内容ばかりである。景気のパロメーターの1つと言われるタクシーだが、最も敏感に景気の悪さを感じているのが実態であり、この先、短期間での回復は難しいとみている。
		タクシー運転手	・来客数や電話注文の増える要素が思い当たらない。競合他社の新規参入もあり、更に厳しい状況となることも心配される。
		その他サービスの動向を把握できる者	・今月は月初めの滑り出しは好調であったが、日が進むにつれて戻す様子となり、利用客数は前年を20%下回った。前年比の20%割れは前年は一度もなかったことであり、景気の落ち込みが、観光にも浸透してきていることがうかがえる。ただ、今後については、高速道路料金引下げによるマイカー客の動きに加えて、定額給付金の給付がプラスの効果となって出てくる事が期待されるため、全体としては変わらないまま推移する。
		設計事務所（所長）	・追加経済対策も長期的な回復予測にはすぐにはつながらないため、住宅のような大きな消費は引き続き悪いまま推移する。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・地元百貨店の閉店問題や地元商店の相次ぐ廃業に加えて、大手企業の夏のボーナスの大幅カットなど、景気の悪さを象徴するようなことが連日マスコミで報道されているため、お金を使うことが悪いことであるかのような状況になっている。そのため、今後についても客の財布のひもが緩むことは期待できない。
		百貨店（売場主任）	・身の回りや、世間一般での出来事に良くなる要素が全く見当たらない。
		スーパー（店長）	・現実には景気が良くなる好材料が見当たらないことに加えて、利益を削っての価格戦略が、今後、ますます自分の首を絞めることが心配される。
		スーパー（企画担当）	・世界的な経済不況に加え、新型インフルエンザのパンデミックの可能性が高まっており、先行きの消費環境がますます厳しくなることが見込まれる。
		スーパー（役員）	・商品単価の低下は、単にメーカーの値下げ等によるものばかりではなく、各小売業での売上高確保のための無理なディスカウントによるものも含まれているとみられるため、今後しばらくはこうした状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポ効果にブレーキがかかると同時に、各スーパーの値下げが相次いでいるため、今後については、競争が更に激化し、売上の的には苦戦することが見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニはタスボの恩恵でここ1年の売上が増加したが、低単価商品中心の売上であることから、現在の消費者の買い控え傾向を考慮すると、前年比では今後苦戦することが見込まれる。
		衣料品専門店（店長）	・現在は不況の声ばかりで、客の買う気がそがれているため、今後についてもそう簡単に良くはならない。
		高級レストラン（スタッフ）	・前年の食品の国産信仰は、すっかり沈静化しており、低価格化に向かっていることから、今後についてはやや悪くなる。取引業者の話では、食材の産地が国産品から、安い輸入品に移行しており、今後もしばらくは価格低下の動きが続く。
		観光型ホテル（経営者）	・今夏は開港150周年事業が控えているが、現在のような状況が続けば、集客もあまり期待できず、厳しい状況となることが見込まれる。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注販売額が前年を下回っていることから、今後についてはやや悪くなる。
		観光名所（職員）	・景気の先行きに不透明感があり、判断が難しい面があるが、海外客及び道外客は減少傾向にあることから、今後についてはやや悪くなる。ただし、高速道路料金引下げの影響で道内客は増加することが見込まれる。また、ボーナス等の減額により観光の近場志向が高まることで市内客の増加も見込まれる。
悪くなる		旅行代理店（従業員）	・今後、マスコミや外務省、WHO等から新型インフルエンザに関する情報が随時公表される可能性が高いため、まだ感染者が出ていない国も含めて、海外旅行を敬遠する動きが出てくる懸念される。
		タクシー運転手	・4月から競合他社が新たに開業し、安い運賃での運行を始めている。市内では、すでに大手のタクシー会社が運賃の値下げ申請を行っており、タクシーの需要が減っているなかで価格競争が起きている。そのため、今後については、ますます競争が激しくなり、売上が落ち込むことになる。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		家具製造業（経営者）	・メーカーの在庫調整も一段落するため、今後については全体的な活性化が見込まれる。
		建設業（経営者）	・工事の発注が本格化するため、徐々に人、物、金の動きが活発になる。ただし、官民を問わず価格競争が激しいため、採算面では厳しいことが見込まれる。
	変わらない	通信業（営業担当）	・政府の追加経済対策の効果は着実に实体经济に現れてくることが見込まれる。まだ楽観視はできないものの、景況感には上向き傾向に推移する。
		食料品製造業（役員）	・今後については、受注状況が良くなることが見込まれるが、新しい商売の話が出てこないため、全体としては変わらないまま推移する。
		金融業（企画担当）	・夏場の最盛期になり、建設関連などへの景気対策の浸透が期待される。観光関連なども高速道路料金引下げなどから入込客の増加が見込まれる。しかしながら、経済環境は低水準圏内が続くことに変わりない。
		司法書士	・土地取引並びに個人向けの住宅の新築は、今後も低水準で推移していくことが見込まれる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・中小企業に対する銀行の貸し渋り、貸しはがしのスタンスが今後も変わらないことが見込まれるため、今後については変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・当社を取り巻く環境は横ばい状況にあるため、政府の追加経済対策が浸透するまで、現在の状態が当面続く。
		食料品製造業（団体役員）	・新型インフルエンザの世界的な拡大懸念から、製造業を始めとした国内の景況感是一段と悪化することが見込まれる。
悪くなる	輸送業（営業担当）	・全般的に荷動きが悪いため、今後についてはやや悪くなる。特に、北海道と関西間の家電等の動きが悪いため、定額給付金の効果に期待したい。	
	輸送業（支店長）	・食料関係を除いて物流量が大幅に減少していることから、今後については悪くなる。一部にはダンピングの動きも出ている。	
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・現時点で受注可能性のある案件が減ってきている。現在は、まだ受注残が残っているが、今後の新たな注文がなければ、厳しい状況になることは間違いない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・製造業の一部で在庫調整が進んでおり、多少は操業率が向上することが見込まれるため、今後についてはやや良くなる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・基幹産業の農業、畜産が安定していることもあり、関連の2次産業の求人意欲にも変化がないため、今後しばらくは現状のままで推移する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・良好な判断をできる材料が見当たらないため、今後については変わらないまま推移する。
		学校〔大学〕（就職担当）	・前年の米国発の金融危機を契機に、就職環境は、年度途中にもかかわらず、売手市場から買手市場に転じており、就職氷河期の再来が懸念されている。現実には、今年度の大卒採用計画は7年ぶりの減少となっている。採用人数の減少とあわせて、学生の質を重視する傾向が強まっており、採用試験のかなり早い段階で不採用となる事例が増えている。今後についても、時間の経過だけで好環境を望むことは難しい。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・求人、人材派遣の依頼は減少傾向で推移することが見込まれる。企業からの雇用調整の相談も多くなってきている。また、本州資本の工場、出先機関の廃止に加えて、地場企業においても、業績の悪化から人件費削減のためのリストラを検討する企業も増えてきている。一方、求職者サイドでは、道内各地で失業者向けに行っている就職セミナーなどへの出席希望者が、前年よりも2割ほど増えている。これらのことから、雇用環境が今後も悪化することが見込まれる。	
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・依然として、求人数が増えてこないという、採用のハードルも高くなってきているため、今後についてはやや悪くなる。	
	職業安定所（職員）	・求人数が減少傾向にあるため、今後も常用求職者の増加傾向が続く。	
	職業安定所（職員）	・雇用保険受給資格者喪失者数のうち事業主都合離職が前年を22.0%上回っている。増加幅は前月より小さくなっているものの、8か月連続の増加となったことから、今後についても悪くなるが見込まれる。	
悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・底が見える気配がないため、今後についても悪くなる。他の業種に先行して改善傾向を示す業種も見当たらない。	

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・中心街区の商店街では、高速道路料金引下げによる効果が薄く、来客数の減少傾向が続いているが、景気に底打ち感が見え始めている。
		商店街（代表者）	・定額給付金の給付により消費がやや回復する。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・定額給付金の給付により、一時的ではあるが消費が回復する。
		百貨店（販促担当）	・これまで苦戦していた衣料部門では、若年層をターゲットにした分野で回復の兆しがみられるなど、長く続いていた客の買い控え傾向に歯止めが掛かる。
		百貨店（経営者）	・定額給付金の給付やプレミアム付き商品券の発行などにより、若干の消費回復が期待できる。
		家電量販店（店長）	・政府の追加経済政策として、省エネ家電の普及促進を目的に導入されるエコポイント付与の効果で売上の増加が期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税に続き、補助金の支給が決定されれば、これまで買い控えしていた客に動きが出てくる。さらに自動車メーカー各社の新型車投入による相乗効果も期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税や補助金の効果により、今後売上は増加する。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車に対する減税や補助金などの発表が追い風となり、消費者の乗換え需要は確実に増加する。
その他専門店〔食品〕（経営者）		・地元客向けの新製品や、高速道路料金引下げ効果で増加した観光客向けの廉価なパック詰商品の販売によって、売上減少に歯止めが掛かる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・定額給付金の給付が始まることから、消費者の購買意欲は少なからず上昇する。さらに大河ドラマによる経済効果により地域全体の景気が回復に向かう。
		高級レストラン(支配人)	・客単価は低下傾向にあるが、今後は客のニーズに合わせた商品をいち早く提供することで来客数の増加が期待できる。
		その他飲食〔弁当〕 (スタッフ)	・当地域では5月から定額給付金の給付が始まることから、消費はある程度回復する。
		都市型ホテル(スタッフ)	・下旬開催のイベントに対する客の反応が良くなっていることから、今後も積極的なイベント展開により不況による閉塞感からの脱却が期待できる。
		観光名所(職員)	・来客数、客単価共に前年を上回っており、このような状況は今後も続く。
		美容室(経営者)	・定額給付金の給付により一時的ではあるが消費回復効果が見込める。
		その他住宅〔リフォーム〕 (従業員)	・薄利多売の競合店の影響で厳しい状況が続くものの、今後消費はやや回復する。
		商店街(代表者)	・中心街区が一体となって郊外の大型店対策を進めていかなければ、今後も厳しい状況が続く。
		商店街(代表者)	・定額給付金の給付は明るい話題であるが、景気全体を押し上げるまでには至らない。
		一般小売店〔書籍〕 (経営者)	・定額給付金の給付により、一定の消費回復効果が期待できるが、所得減少などの他要因により、売上は前年並みに推移する。
		一般小売店〔スポーツ用品〕(経営者)	・高速道路料金引下げにより、客は郊外の大型店に行きやすくなることから、中心街区の商店街は景気対策の恩恵を全く享受できず、厳しい状況が続く。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・景気回復の材料が見当たらず、周辺の飲食店では売上低迷が続く。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・政府の景気対策によりある程度の消費回復効果は期待できるが、中長期的には厳しい状況が続く。
		百貨店(売場主任)	・相変わらず客の生活防衛意識は高く、高額商品の売行きは悪いものの、安くて良い物への購買意欲は高まっており、今後に期待が持てる。
		百貨店(企画担当)	・製造業の在庫調整が進み、早期の景気回復を期待していたが、夏のボーナスが減額になる見込みであり、回復までには時間を要する。景気が上向くような明るい話題も乏しく、消費マインドは落ち込んだままの状況が続く。
		百貨店(広報担当)	・定額給付金の給付に伴い一時的に消費は回復するが、ボーナスの減額などのマイナス要因も多く本格的な景気回復までには至らない。
		百貨店(経営者)	・プライダルギフトの動きが全くない状況のなか、夏のボーナスの減額が予想されることから、当面は現在の悪い状況が続く。
		百貨店(売場担当)	・高速道路料金引下げや、大河ドラマの効果もあり、ゴールデンウィーク期間中は来客数の増加が期待できるが、衣料品は依然として節約対象となっており、売上増加は見込めない。
		百貨店(経営者)	・3月期決算では業績悪化している企業が多く、夏季賞与も期待できないことから、厳しい状況は今後も続く。
		スーパー(店長)	・消費者の生活防衛意識は相変わらず高く、競合店との値下げ競争が激化していることから、買上点数、客単価共に落ち込んでいる。定額給付金の給付の効果も全く感じられず、今後もこのような傾向が続く。
スーパー(店長)	・価格訴求を強化せざるを得ない状況となっており、特売品も値下げしている状況にあることから、1品単価の下落傾向は今後も続く。		
スーパー(店長)	・競合店のプライベートブランド商品の値下げによる競争激化や、新型インフルエンザの発生による輸入豚肉の風評被害が懸念され、今後も景気回復は期待できない。		
スーパー(総務担当)	・新型インフルエンザの影響で、5月は加工食品やマスクなどの日用品の需要が一時的に高まるが、この特殊要因がなくなれば、前年並みに推移する。		
コンビニ(経営者)	・来客数、客単価、買上点数共に前年を上回っているが、今後は、日用雑貨品の値下げが相次ぎ、売上は横ばいで推移する。		
コンビニ(経営者)	・周辺は製造業が多いことから、業況が回復しない限り、売上低迷が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・乗客数は前年に比べ2%の増加が見込まれるが、客単価の低下傾向は今後も続く。
		コンビニ（エリア担当）	・郊外立地の店舗を中心に、高速道路料金引下げによる効果が現れるが、景気全体を押し上げるまで至らない。また、5月以降はタスポ導入から1年を経過することから、売上は前年を下回って推移する。
		衣料品専門店（経営者）	・客の生活防衛型の消費傾向は今後も続き、定額給付金の給付やプレミアム付き商品券の発行などの消費刺激策は、期待通りの効果は得られない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後も消費マインドは落ち込んだまま回復しないことから、売上の増加は期待できない。
		衣料品専門店（店長）	・乗客数が増加しているものの、1品単価や買上点数が低下傾向にあることから、売上は横ばいで推移する。
		衣料品専門店（店長）	・依然として不景気感が強く、当面消費回復は見込めない。
		衣料品専門店（総務担当）	・定額給付金の給付が開始されているが、消費活性化の効果はあまり期待できない。
		乗用車販売店（経営者）	・政府による環境対応車への購入支援策の効果を最大限発揮させるため、低年式車を保有する客に対して乗換えを進めるダイレクトメールを発送することから、売上の増加が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・環境対応車に対する減税や助成など、政府や県による景気対策の効果はある程度あるものの、客の財布のひもが固い状況は今後も続き、売上は横ばいのまま推移する。
		住関連専門店（経営者）	・売上が今以上に減少することは考えられず、今後は悪いながらも横ばいの状態が続く。
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・プレミアム付き商品券の効果により中心街区では多少活気が出てきており、今後もイベントの開催などを通じて来客数の増加傾向が続く。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・景気が回復するような好材料が乏しく、今後も厳しい状況が続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・需要低迷で価格上昇が見込めないことから、今後半年程度は非常に厳しい状況が続く。
		一般レストラン（経営者）	・現在は景気の底であり、売上が落ち込んだまま状況は今後も続く。
		一般レストラン（経営者）	・政府の消費刺激策による効果は、一時的なものに過ぎず、景気全体を押し上げるには至らない。
		一般レストラン（スタッフ）	・所得減少に伴い消費マインドは冷え込んでおり、今後も来客数の減少傾向が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・高速道路料金引下げや定額給付金の給付、大河ドラマ効果を期待しているが、今のところ予約状況は上向かず、さらに選挙が始まれば一般宴会への悪影響が懸念される。
		旅行代理店（店長）	・国内旅行の売上は前年並みで推移するが、海外旅行は燃油サーチャージの負担低減もしくは廃止によりリピーターの動きが良くなり、前年を上回って推移する。
		タクシー運転手	・新幹線から降車する客の様子をみると、行楽を近場で済ます傾向が見受けられ、この傾向は今後も続く。
		通信会社（営業担当）	・定額給付金の給付により消費回復効果が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・景気が底打ちする兆しは全くみられず、今後も厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・景気悪化の連鎖反応であらゆる業界が厳しい状況にあり、景気回復のための材料が見当たらない。
		スーパー（店長）	・近隣に開店した競合店への客の流出を防ぐため、重点商品の価格引下げを実施しているが、1品単価が低下するため、売上は減少する。
		コンビニ（エリア担当）	・買上点数、1品単価共に下げ止まり感がみられず、今後も客単価は低下する。
		衣料品専門店（経営者）	・サマーセールでは、買上点数は前年並みとなる見込みであるが、1品単価が低下する。
		衣料品専門店（経営者）	・地方の中小企業、特に小売業では、価格競争の激化で大企業に太刀打ちできない状況にあり、今後も厳しさを増す。
		衣料品専門店（店長）	・クールビズが前年以上に浸透し、サマースーツの需要が減少する。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税や補助金への関心が、個人、法人問わず高まっているが、環境対応車への極端ともいえる需要の偏りが生じており、売上全体では、前年を20%程度下回る見込みとなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		住関連専門店（経営者）	・定額給付金の給付などの政策によりある程度の消費回復が見込まれるが、地方では資本金のある大型店が市場を独占しており、今後も厳しさを増す。		
		住関連専門店（経営者）	・景気低迷や雇用情勢の悪化に伴い、客の財布のひもは更に固くなることから、耐久消費財の売上は減少する。		
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・客は価格にシビアで今後も出費を抑制する傾向が続くことから、景気回復は困難である。		
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・景気の先行き不透明な状況が長引くなか、客はより安価な物を求める傾向が強まり、デフレが進行する。		
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・景気の先行き不安が高まるなか、ガソリン需要は更に減退する。		
		スナック（経営者）	・景気が底打ちするような明るい話題も見当たらないことから今後も売上は減少する。		
		観光型ホテル（経営者）	・イベントを企画しても客の反応が薄く、落ち込んでいる旅行マインドが回復する要素は全く見当たらない。		
		観光型ホテル（スタッフ）	・小売業や製造業の業況が悪化し、レストランへの不安も高まっていることから、来客数は今後も減少する。		
		タクシー運転手	・就職説明会の会場から乗車した客によると、説明会の参加企業は非常に少なく、狭き門となることである。若年層の就職が厳しい状況下で、今後景気が良くなることは考えにくい。		
		通信会社（営業担当）	・受注が回復するような好材料は見当たらず、今後もじわじわと厳しさを増していく。		
		遊園地（経営者）	・景気対策の効果が消費全体に波及することを期待しているが、底打ちする時期が不透明である。		
		住宅販売会社（従業員）	・今後も受注量の減少が続くものの、長期管理客からの受注が順次入ることから大きな落ち込みとはならない。		
		悪くなる		商店街（代表者）	・これまで経験がないほど来客数が落ち込んでいる状況にあるが、5月は更に減少し、その後の回復は見込めない。
				一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・雇用環境の悪化や所得低迷が続くなか、今後個人消費が上向き要素は見当たらない。さらに新型インフルエンザなどの外部要因も出てきており、景気の先行きは不透明な状況にある。
スーパー（経営者）	・可処分所得が依然として低迷しており、今後も売上、客単価共に低下する。				
スーパー（経営者）	・建設業や製造業における雇止めの増加や、賃金低下が影響して、今後も消費マインドが低下する。				
コンビニ（経営者）	・雇用情勢の悪化に伴い、客の購買力が低下することから、売上が減少する。				
衣料品専門店（店長）	・例年ボーナス商戦では、特に40～60代の客の動きが良くなるが、今年は企業の業績悪化に伴うボーナス減額の影響で、スーツにかかる予算が抑制され、厳しい商戦となる。				
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・ガソリン価格の上昇や新型インフルエンザなど、景気後退要因はあるが、回復要因が見当たらないため、夏物衣料の1品単価の低下が懸念される。				
一般レストラン（経営者）	・梅雨に入り、歓送迎会などの行事もないことから飲食店の売上が落ち込む時期となるが、今年は解散総選挙が実施されるため更に落ち込む。				
観光型旅館（経営者）	・ゴールデンウィークなどの連休以外は予約が全くない状況にあり、政府による景気対策の効果が現れるのもかなり先になる。				
都市型ホテル（経営者）	・宿泊部門では、底打ち感がみられず、前年末から続いている売上の減少が今後も続く。宴会部門においても企業の総会関係の予約状況から売上減少が見込まれる。				
旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの影響で売上減少が懸念される。				
タクシー運転手	・ゴールデンウィークは、高速道路料金引下げ効果により遠出する消費者が増加するが、家計も圧迫されることから、売上は更に減少する。				
通信会社（営業担当）	・定額給付金の給付程度では景気回復は望めず、今後も消費は低迷する。自動車などのリーディング産業が通常稼働の状態にならない限り、消費の回復は困難である。				
企業動向	良くなる			-	-
関連	やや良くなる	-	-		
	変わらない	農林水産業（従業者）	・桃の花の開花が例年より5日早まり、お盆前の出荷が可能となることから、収入の増加が期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		木材木製品製造業（経営者）	・初めて住宅を購入する層の可処分所得は低迷しており、住宅需要が回復する環境にないことから、今後も需給バランスの悪い状況が続く。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	・政府や世界各国の景気対策に期待感はあるものの、景気回復局面において地方経済の回復は遅れることから、当面は厳しい状況が続く。	
		建設業（経営者）	・住宅ローン減税や金利引下げの効果により、今後景気は上向く。	
		通信業（営業担当）	・取引先や関係企業グループの業況から、今後景気が上向くような要素は見当たらない。	
		広告代理店（経営者）	・取引先の広告費削減により新規案件がほとんどない状況が今後も続く。	
		経営コンサルタント	・雇用環境が改善しない限り今後の景気回復は見込めない。	
		司法書士	・景気回復するような好材料が乏しいことから、今後も厳しい状況が続く。	
		コピーサービス業（経営者）	・政府による景気対策の効果が当業界に波及するまで、今後かなりの時間を要する。	
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・取引先の印刷会社では、受注量の減少や価格の引下げにより、今後も厳しい状況が続く。	
		やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・果樹の休眠期に高温が続き、授粉期に降雨が続いたことから、収穫量の大幅な減少が見込まれる。
			食料品製造業（経営者）	・景気低迷が徐々に家計に影響を及ぼすことから、現在横ばいで推移している受注量は減少に転ずる。
			食料品製造業（総務担当）	・例年、夏季は需要が落ち込む時期であるが、今年は景気悪化の影響も加わり、売上は更に減少する。
			出版・印刷・同関連産業（経営者）	・売上減少分を新規事業でカバーしていかなければ、今後も厳しさを増す。
			電気機械器具製造業（営業担当）	・中小企業では、取引先の業況悪化により受注量が大幅に減少していることから、今後倒産が増加する。
建設業（企画担当）	・製造業の業況悪化に伴い受注が減少しており、景気回復にはかなりの時間を要する。			
輸送業（経営者）	・国内需要の落ち込みにより、輸送量増加の見通しが立たない状況にあり、今後も厳しさを増す。			
金融業（営業担当）	・景気回復の兆しが見られず、今後も厳しさを増す。			
広告業協会（役員）	・環境対応車への減税による販売促進効果が出てきており、広告出稿の増加が期待できる。			
広告代理店（経営者）	・入札案件の減少傾向は今後も続き、価格も更に低下する。			
その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・消費者の低単価志向に耐えられない小売店の廃業が増加する。			
協同組合（職員）	・減給や定期昇給なし、夏のボーナスカットという企業が大多数を占めており、今後も先行きの受注予想が全く付かない状況にある。			
悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当）		・1～3月の売上は前年比85%、4月は50%と低下幅が拡大しており、今後も厳しさを増す。	
	一般機械器具製造業（経理担当）		・先行きに受注回復の兆しが見えず、当初計画を更に下回る見込みとなっている。	
	公認会計士	・政府の財政出動の効果が現れるのは、半年以上先となり、地方では更に遅れることから、当面は厳しさを増す。		
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・安心、安全で価格が安い物を購入する消費傾向が強まっており、今後もしばらくこの傾向が続く。		
雇用関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	-	-	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・景気の先行きを様子見している企業が多数あり、6月末での契約更新は不透明な状況にある。	
		人材派遣会社（社員）	・相変わらず職業安定所は混んでいるが、求職者は、失業しないことに重点を置いていることから仕事を選別している。自動車部品産業の一部で、雇用情勢が改善しつつあるという話も聞こえてくるが、地方に現れるのはかなり先となる。	
		職業安定所（職員）	・雇用調整を実施した事業所から派遣の求人申込が出始めているが、6月まで請負や期間社員を中心に雇止めが続く。	
		職業安定所（職員）	・求人数が減少する一方で、求職者数は大幅に増加しており、今後もこの傾向が続く。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・企業による採用抑制傾向は今後も続く。		
	職業安定所（職員）	・企業の人員削減に伴い新規求職者数が増加しており、今後もこのような傾向が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・一時帰休を実施する企業は減少せず、雇用調整助成金の活用を希望する企業からの相談が相次いでいる。
		職業安定所（職員）	・前年に比べ求人数が大幅に減少しており、今後も雇用情勢は厳しさを増す。
		職業安定所（職員）	・業種を問わず、休業などの雇用調整の動きが更に広がる。また、前年に比べ正社員の求人が大幅に減少し、パートタイマーや期間雇用の求人が増加する。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣契約の打ち切りが相次ぎ、派遣スタッフの実稼働者数の減少が続くなか、新規や増員の相談案件も途絶えており、今後は更に厳しさを増す。
	アウトソーシング企業（社員）	・官庁関係からの受注は前年並みであるが、一般企業からの受注が減少しており、今後改善する要素が見当たらない。	
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金や中小企業緊急雇用安定助成金の利用が増加しているが、今後、雇用調整を予定している企業からの相談も引き続き増加している。

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・売上、客数共に前年比118%と引き続き好調である。
		旅行代理店（支店長）	・今月は最低だったが、2、3か月後は旅行のシーズンに入るの、確実に良くなる。また、ボーナスの支給や定額給付金の給付があり、それらの期待度は高い。海外も燃油サーチャージが無くなり、プラスの動きが期待される。ただし、新型インフルエンザの影響で変わる可能性もある。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・陽気も良くなって人の動きが大分見えてきている。定額給付金の給付を当てにしていづら景気も良くなる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・エコポイント等に期待している。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・企業の休業等が少なくなっている。
		衣料品専門店（統括）	・ここ2か月位前から、祭りや踊り関係の注文が少しずつ入っている。これから祭りの季節になるので、少しずつ上向きになる。
		家電量販店（経営者）	・省エネ家電のエコポイントの実施による需要喚起に期待している。
		家電量販店（店長）	・地上デジタル放送関連が今後期待できるが、相乗効果として白物などの消費マインドが上向きかは厳しい。ただし、エコポイントの実施で一時的に単価が上がり、来客数も伸びる。
		乗用車販売店（営業担当）	・客にとって非常にメリットのある補助金がもらえるようになれば、購入増加が見込める。
		乗用車販売店（販売担当）	・今月に入って定額給付金の給付や、土日の高速道路料金引下げ等で、当店の客が多い観光地のホテルやイベント村に県外からの来客数が増える要素があるので、1～2か月先は多少良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・ゴールデンウィークの曜日の並びも良く、予約は比較的好調であるが、宿泊者数の伸びの割に売上が伴わないため、油断はできない。
		旅行代理店（従業員）	・来年度、再来年度、さらに先の旅行パンフレットが無いかといった問い合わせが多数ある。将来、旅行に行きたいという客が増えている。
	設計事務所（所長）	・前年は北京オリンピックの影響があって建築費が高騰したが、ここに来て少し価格が下がってきており、建てたい気持ちがあるという話が少し聞こえてきている。	
	変わらない	一般小売店〔家電〕（経営者）	・家電製品においては、グリーン家電のエコポイントに伴う購入に期待したいが、消費者の購入意欲がどのくらい出てくるのか、景気回復につながっていくのかは見えてこない。
一般小売店〔金物〕（経営者）		・依然として財布のひもは固いが、定額給付金の給付もあって、多少消費が上向き。	
百貨店（総務担当）		・ゴールデンウィークの売上が注目される。東京近辺の客が当地域に遊びに来ると、多少売上が上がる。また、地元の客が東京に行くことが増えて、県産の菓子の売上が上がるかもしれない。しかし、その後の反動がどうなるか、必ずしも客の財布は豊かではないので、情勢はますます厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・現状の景気は悪いが、これから先もしばらくはこの景気の停滞が続く。
		スーパー（経営者）	・競合の状況は変わらない。デフレに突入する可能性がある。
		スーパー（総務担当）	・消費は非常に厳しく、毎日の食品の購入についても、購入の優先順位は価格になっている。また、買い得品以外、必要な物以外は購入を控えている。買上点数も減少している。
		スーパー（総務担当）	・今後3か月間の予測の中では、販売量、売上について大きく伸びることはない。食品についてはほぼ前年をクリアできると思うが、単価は低下している。衣料品については全く今期予測がつかない。その流れは変わらない。
		コンビニ（店長）	・定額給付金の給付で上向くと言われているが、特別いらぬものは買わないという傾向は変わらない。お金をかき集める場合も出てきているので、必要なものは買う、必要でないものは買わないので、消費が大きく上向いたり、下向くということはありません。
		家電量販店（営業担当）	・一時的な対策であるがエコポイントに期待している。しかし全体的な売上の増加は期待できない。
		乗用車販売店（管理担当）	・新年度に入り、追加景気対策の実施により、やや安定している。しかし、景気低迷は製造業を中心に悪化し、食品業以外は消費が更に悪化状態である。
		乗用車販売店（販売担当）	・10月から段々悪くなっている。4月に入っても来客数が減り、最低の3月の状態を維持したままである。サービス、修理もいくら客の呼び込みをしても修理をしてもらえず、本当に悪い。
		自動車備品販売店（経営者）	・数か月ぶりに、今月は良く、3か月後が今月のように良くなると思えないが、高速道路料金引下げ等で客の方もお金を使う機運が高まっており悪くなると思えない。
		住関連専門店（仕入担当）	・一部動きの活発になる商材があるが、消費マインドの低減で、支出を抑えその中で売れているものが変わっている。売れるものがあるとそれ以上に売れなくなるものが出てくる状況は変わらない。
		都市型ホテル（支配人）	・景気の底入れ、客の状況は今以上に悪くならない。景気の上昇、物価、株、その他の上昇が見込まれれば、今後、少し上向きそうである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・しばらくはこのままで行く。その後は新しいホテル等ができるで大変になる。
		旅行代理店（経営者）	・現況から明るくなる様子は無い。
		旅行代理店（従業員）	・春の旅行シーズンで、多少仕事はあるが、まだ前年比の7割くらいしかない。
		タクシー運転手	・今後も苦しい経営が続く。
		観光名所（職員）	・経済対策により、景気回復の期待感が以前に比べると拡がりつつあり、今よりは少し良くなる可能性がある。
		遊園地（職員）	・高速道路料金引下げにより、休日の商圏が広がる等、期待できる要素はあるが、それ以上に所得減少によるレジャー支出抑制や出控え等の影響が懸念される。
		ゴルフ場（業務担当）	・向こう3か月について、引き合いはあるが客は価格に敏感なので、入場者数は確保できても、売上が伸び悩む状況は続く。
		ゴルフ場（支配人）	・ゴールデンウィークの予約状況は非常に悪く、料金の値引きで対応している。そのため、人件費、経費の削減に一層の力を入れなければならない。
		競輪場（職員）	・多種競技、他場の記念競輪等で前年度の売上を上回っているところがないので、先行きも厳しい。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・消費をする、お金を使うことをためらっていた人達がある程度使うようになってきている。ただ3~4か月前とは違って、興味のあるもの、良いものなら何でもよいということではなく、内容を良く吟味して、ある程度安くして価値のあるものに、消費の目が向いている。当店のようなアミューズメントパーク等、低単価で楽しめる場所は有利である。
		美容室（経営者）	・政府の景気対策の影響で少しずつ美容院に客が戻って来ている。先行きは少し良くなる。
		その他サービス[清掃] (所長)	・定額給付金の給付である程度購買に回るが、日常の買物等の範囲にとどまり、必要以上の買物はしないので景気は変わらない。
		設計事務所（所長）	・今とあまり変わらないのではないかと。悪くなったまま変わらないということ、これ以上悪くはならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		住宅販売会社（経営者）	・自動車関連の企業が多い地域なので、土地の売買の状況については、自動車関連が回復しないと全体的な底上げにはならない。
		住宅販売会社（従業員）	・注文住宅では、展示場への来場者数の多寡が数か月後の受注量に反映されるため、今後2～3か月も変わらない。
		商店街（代表者）	・地域通貨の善光寺小判は評判は良いが、観光用としてのみであり、品物を小判で買物したとは聞かない。この先、売上が良くなるということは考えられない。
		商店街（代表者）	・若者は最近お金を使わない。安、近、短のレクリエーションで楽しむ人が多い。
		商店街（代表者）	・中心から10キロ以内に大型のショッピングセンターが開店したのでまた客足をさらわれる。
		スーパー（店長）	・低価格の傾向が続き、売上の上昇が期待できないので利益は更に厳しくなる。商圏内で製造業の倒産や従業員の解雇が問題になっており、景気の底打ち感が見えてこない。そのうえ、新型インフルエンザの影響が心配される。
		スーパー（統括）	・地元企業のリストラ、ベアゼロ、賞与カットなどのマイナス情報が大半を占めるなか、競合店の開店により、ますます競争は激化する。さらに新型インフルエンザ発生による食への警戒感が強まる懸念される。
		コンビニ（経営者）	・3キロ先に競合店が最近オープンしたので、先行きは厳しい。
		コンビニ（経営者）	・収入減による消費減少に向かう層の増加により、現状よりやや悪くなる。
		コンビニ（店長）	・単価、買上点数共に減り続けているが、7月末に近隣ショッピングセンターがオープンするのを前にして、商圏内の大型店などがバーゲンセールを激化する見込みであり、当店にはかなりのマイナスになる。
		乗用車販売店（従業員）	・環境に配慮した車両も伸びは限界がある。国内の車両の枠の増加は望めない状況なので、今後の対応も大きく変わる。
		住関連専門店（店長）	・多少の景気対策を実施していることで、景気の先行きを「悪くなる」ではなく、「やや悪くなる」とした。具体的には、定額給付金の給付、土日の高速道路料金引下げなどの効果が挙げられる。
		高級レストラン（店長）	・近くの大型商業施設が撤退し、地域の集客力が極端に低下していることに加えて、県内最大規模の大型ショッピングセンターが郊外にオープンしており、今後必ず悪影響が出る。
		一般レストラン（経営者）	・この先、定額給付金の給付により消費増加を期待するものの、下請業者に聞くと、全く仕事の無い話ばかりである。
		一般レストラン（経営者）	・季節の関係で5～7月は売上減少時期であるが、世の中の景気感が悪いことから集客、回数が減る見込みである。
		一般レストラン（経営者）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げなど話題はあるが、何か月か先はそれが当たり前になり、いつの間にか話題から消えて行く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・特記すべきイベントも無いので、不景気に戻る。
		旅行代理店（副支店長）	・5月までは善光寺の御開帳で、周辺は潤う可能性もあるが、現状ではあまり期待ができない。また、海外輸出主の会社がどのくらい戻ってくるか想像ができないが、話を聞く限りでは、2～3か月先の受注は昨年度の20%くらいを確保できるかどうかといった非常に厳しい話が多い。
		通信会社（経営者）	・今後さらに大手自動車メーカー等の下請の中小、零細企業の倒産が予想される。
		ゴルフ場（従業員）	・商業施設ビルの利用、駐車場ビルの利用台数について台数的には変わらないが、客の買い控え並びに単価が低下している。
住宅販売会社（経営者）	・依然として厳しい状況が続いており、客の様子からみても回復はまだ先である。		
悪くなる		商店街（代表者）	・消費者の財布のひもがますます固くなってきている。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・先月同様に景気は悪い。駅に来る乗客数が減っている。高速道路料金引下げの状況が進むと列車の利用をしなくなり、各地域の活性が下火になる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・市内の工場による操業時間の短縮から、飲食店は非常に悪く、来客数の減少が続いている。売上は非常に厳しい。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・地元大手企業グループ全体で帰休がもっと増えると言われており、周りに大型スーパーが何軒かオープン準備をしているので、悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・景気の先行き不透明、可処分所得の増加が見込めない今、生活防衛意識の高まりは必然である。物を買わない状況は今後更に拡大する。
		コンビニ（経営者）	・新型インフルエンザで、食の安全性が更に重要視される。特に、客が豚肉に対して本当に安全かどうかを見直しており、悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・夏場の商品は安くなるので、更に厳しくなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客が定額給付金をいざという時のために蓄えると言っている。
		衣料品専門店（店長）	・新型インフルエンザの世界的流行が収束せず日本でも流行の兆しが見られると、途端に旅行やレジャー等の外出を控えるために衣類を含めて全業種共に悪くなる。
		スナック（経営者）	・善光寺の御開帳等があるのに全然売上がつなげない。まだまだ落ち込んでいく。
		観光型ホテル（経営者）	・良くなる兆しが見えない。政府は各種政策を行ってはいるが、特に週末の高速道路料金引下げは、観光施策としては全般的に外れである。平日の客は減り、休日、休前日の泊り客が日帰り客になってしまう。元々週末は出かける人が多かったのだから、わざわざそこを割引かなくても良い。経済効果を求めるのであれば、平日を割引にした方がよい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・市内のホテルの単価が安くなるにつれて新しく進出してきた5つのホテルもかなり安価でやっている。最終的にお互い潰しあいになることを非常に危惧している。今後は特別に安い価格で1人でも多く客をとる競争が当分の間続く。
		タクシー（経営者）	・大型店の撤退もあり、この先も悪い。
		設計事務所（経営者）	・ガソリンスタンドの設計を手掛けているが、昨年度の原油高の時期から業界全体の景気悪化が続いており、新期計画が1年以上凍結されている。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般機械器具製造業（経営者）	・厳しい状況が続く、客先各社の在庫調整がいつまで続くのか見通しが難しい状況だが、更なる減産の話は今のところ無い。夏に向けて研究開発案件が動き出す予定もある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関連の受注量はメーカーの在庫調整が完了に近付き、わずかに増加するが、建設機械関連は全く不明である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先10社のうちの2～3社は減産が落ち着き、6～7月ごろから受注量が増える見込である。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・3か月先は今月より30%強の増加が見込まれる。一方、前年比ではまだ20%近く減少しており、底からはい上がってきたという感じだが、まだ収益回復には至らない。
	変わらない	その他製造業 [環境機器]（経営者）	・フロン回収機はメンテナンスを含めて受注が少し減少するが、エアゾール缶、ガス缶、ライター処理装置等の大型装置の受注は今後も期待できる。
		建設業（経営者）	・補正予算が動き、各県の公共事業が動くので景気はやや良くなる。
		金融業（経営企画担当）	・製造業の一部において、5、6月にかけて新規受注が見込める先があるなど、多少の動きが出始めている。また、医療関連及び電気部品関連の一部において不況の影響が比較的軽微な企業も見られる。
		経営コンサルタント	・中小企業の存廃による整理淘汰がやや進み、経営革新に取り組んで将来を見据えた活動に取り組む企業は生き残り、受注が集中し、回復する。
		食料品製造業（営業統括）	・不景気による工場見学者の減少、輸入ワインの攻勢等、マイナスの要因が非常に強く、今のところプラスの要因は見当たらない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・業界全体は良くない。ただプレミアム付き商品券等の受注が入ってきており、マイナスを埋めているような形になっているので、今後2～3か月先についても何か大物があれば穴埋めできる。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・厳しい状況に変わりはない。
		金属製品製造業（経営者）	・急に仕事が出てくることもあるようになり、仕事量は先月より出ている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今がどん底で回復の予定はない。設備関係が復活してくるのは今年末くらいとの予想があり、それまで何とか頑張っているが、状況としては厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業担当）	・政府経済対策の成果が出始め消費意識が上がってきており、業種別には大分出荷量、荷扱量の上下が出ている。一部にはプライベートブランド商品等の値下げにより運賃のコスト削減を迫られている部分もあり厳しい。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・景気対策で車や家電製品など購入の動きを見せる客が見え始めている。一部では回復基調との調査結果も聞かれるが、まだ製造業では週2、3日出勤といった企業があり、先は見えない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・情報化投資も抑制されつつあり、受注量、価格共に、厳しくなる。
	やや悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・全く見通しが立たない。いつまで我慢、調整をしていけばいいかわからない。
		通信業（営業担当）	・身の周りの生活においても、財布のひもは固く、お金を持っていても使わない傾向が顕著である。消費を促進する商品、サービス、仕組みが見えない。
		社会保険労務士	・受注が増えておらず、1週間通して通常操業の状態に戻るにはまだ時間がかかる。
	悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・5月に決算の報告が出て、数字が確定し、不景気感がまん延するので、消費者の財布のひもは固くなる。食べなくては生きていけないので、ある程度のお金はかけるが、やはり今は安さで決まっていく。しかし半値では倍売ってもトントンなので、作るだけ赤字になる。
		化学工業（経営者）	・ゴールデンウィークの連休が16日間だという企業が県内にいくつかある。鉄鋼関連も非常に悪く、影響を受けている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・設備投資が冷え込むなか、当社の受注予定は目標の半分以下の状態が続いており、この先も続く。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・取引先で支払状況が悪くなっているところがあり、さらにまだあるような気配がある。
建設業（総務担当）		・建設業者は毎月の資金繰りが一番の心配事になっている。政府もいろいろな経済対策を実施しているが、当社の現状では金融機関からの追加融資が受けられないため、経済対策効果は無い。	
金融業（総務担当）	・支出削減も継続して行っていかなければならず、底打ちしている感じが全くしない。		
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・ガソリン、灯油等の価格については小さな上げ下げはあったが落ち着いている。消費の面では衣料関係が伸び悩んでいる。生鮮食料品関係も魚介類等の値上がりに不安を感じているように見受けられる。求職者数は依然として、非常に多い。先行きも不透明なところが多い。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・景気が悪く、このままでは会社がもたない。
		職業安定所（職員）	・求職者の増加はこのまま続くと思われる。また、国の助成金制度を利用しようとする企業も増えてきているので、更なる大きな悪化はないとしても、厳しい状況は続く。
		民間職業紹介機関（経営者）	・部品メーカー等の一部の企業において、平日の休業撤廃、あるいは休日出勤が始まるといった明るい材料が見えてきたが、全体として盛り上がる状況には至っていない。
	やや悪くなる	学校〔専門学校〕（副校長）	・求人数の減少もさることながら、試験内容が難しくなっている。昨年まで内定を得ていたレベルの学生が軒並み不合格となっており、採用に関して経済状況も見ながらの慎重な姿勢がうかがえる。
悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・どこの会社も仕事の量が少なく、今後が心配である。	
	人材派遣会社（営業担当）	・3月末での契約打ち切りが多く出ており、4～5月の新規案件がない。特に地元の製造業の景況は深刻で、連休も最大20日、16日になる企業もあり、収入が減少し景気に与える影響が懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求人数及び有効求人数は前年を下回っている。世界経済危機による景気の低迷から、特に自動車、半導体関係業界等からの受注の激減により、製造業の求人数の減少が大きい。さらに新規求職者も増加傾向で推移している。

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	スーパー（統括）	・5月初旬にリニューアルオープンする予定なので良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・エコポイント制度が始まるだろうと思われるので、今まで買い控えをしていた客に多少商品を買ってもらえる。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・エコポイントが普及すれば、少しは良くなる。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・季節的なものもあって、夏季はイベント、祭りなどがあり、需要が増える。
		百貨店（企画担当）	・各種の景気浮揚策は、一過性だろうが、一定の範囲で若干の効果を示すものと期待できる。
		百貨店（業務担当）	・売上の前年割れの割合が少なくなって来ているので、このままの傾向で少しずつ回復することを期待している。ただし、戻り幅は非常に少ないので、何かがあればまたダウンしてしまうというような、非常に微妙なところである。
		コンビニ（経営者）	・定額給付金の給付により、総体的に景気が良くなる。
		コンビニ（店長）	・ここから3か月先くらいまでは、タスポ効果によって微増のまま推移する。
		家電量販店（経営者）	・5月15日より追加経済対策で、テレビを中心に冷蔵庫、エアコンを対象としてエコポイントが付与される。前年同時期はオリンピック特需があったが、その実績を上回る経済効果が期待できる。
		家電量販店（営業統括）	・エコポイントと今夏の気温次第だが、消費者心理は改善の方向に進んでいる。定額給付金の給付も消費行動を起させる施策であり、消費者はせっかくだから利用しようとしている。今後しばらくは消費傾向が強くなっていくのではないかと見ている。エコポイントを何とか消費者に理解し易い制度として立ち上げて欲しい。
		家電量販店（統括）	・追加経済対策が消費をけん引してくれるものと信じている。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車業界はスクラップインセンティブ等の国からの支援が出てきてはいるが、決まっていないものを発表されてかなり混乱している。客も様子見というところで、今後の動きに期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	・整備は順調に入っているが、販売はあまり芳しくない。政府の臨時経済対策に期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・景気回復を目指す大型の補正予算が審議されていることなどから、一時的な景気浮揚は行われると思うが、全体的にどうなるかは数か月後を見てもいいとはっきり言えない。
		旅行代理店（従業員）	・燃油サーチャージの下落やウォン安により、海外旅行が増える。
		旅行代理店（従業員）	・景況感の悪さは続くが、燃油サーチャージの7月からの撤廃に期待したい。
		通信会社（営業担当）	・定額給付金の給付開始による好影響を期待したい。
		ゴルフ練習場（従業員）	・5、6月に向けてゴルフシーズンは続くので、来客数、売上共に理想ではプラスになりそうである。併設するレストランについては、パーティー需要などが減ってくるため苦戦が考えられるが、前年並みは可能である。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・近所の新しいマンションの入居が始まったり、テナントビルに新しく店が入ってきたので、良くなっていく。
		変わらない	商店街（代表者）
商店街（代表者）	・今月から来月に掛けてプレミアム付き商品券を発行するところが多いが、食料費以外のものには回ってこない。また、一般的な小売業は、大きいところでも安売り合戦をしているので非常に難しい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・これからの計画も成り立たないということが出てきており、このままではどんどん悪くなる状況なので、消費が良くなるのは思ったよりも難しい。自動車、電気製品の一部で10%や25万円が戻ってくるのも全員が受けられるものではない。
		商店街（代表者）	・景気対策も軌道に乗ってくるのではないかとと思われる。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・周辺の同業者もなくなり、スーパー等には学用品の種類がないため、当店のような専門店には自転車に乗って2駅くらい先から買いに来るといった状況である。しばらくは、その時その時の需要によって、かなり良い結果が出るのではないかと見ている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・これからしばらくは同じような状況が続く。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・料飲店等の販売量は多少増加しているように思われるが、来客数は相変わらず少ない。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・定額給付金の給付があり、期待はしているが、客の様子を見ると、やはりそんなに期待はできない感じである。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・非常に厳しい経済情勢である。今が最低だと考えているが、2～3か月先もこの低い水準のまま変わらない。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・定額給付金等の給付で買物客が来るようになってきている。中高年の客はやはり強い。感度の良い商品なら売行きは悪くないので、天候次第でもあるが、今後、中元、夏本番にかけて期待が持てる。
		百貨店（売場主任）	・ゴールデンウィークからは高速道路料金引下げ、交通機関の低価格チケットの影響があり、観光スポットへ客が流れる。
		百貨店（営業担当）	・定額給付金の給付による一時的な増収はあるものの、実賃金が減給や据置き状況では消費者心理の変化はなく、当分財布のひもは緩まない。
		百貨店（営業担当）	・4月は比較的来客数が増えているが、実需型の動きしかない。また、この4月商材はより夏物との併用が近い商品でもあり、本格的な夏物商戦には期待が持てない状況である。
		百貨店（営業担当）	・自動車業界を始め、製造業については復調の兆しなど、マスコミ等で耳にすることが多くなったが、雇用情勢は依然厳しい状況が続くと思われ、また、消費動向については傾向が遅れることを鑑みると、大きな変更はない。ただし、当店は食料品の売上シェアが大きく、食についての影響が大きいため、偽装問題や新型インフルエンザなどの影響が大きくなると更に厳しい状況になる可能性がある。
		百貨店（販売促進担当）	・現在は祝日の家族需要が高いために来客数が増加しているが、通常に戻れば、定額給付金の給付があっても、支出を抑える傾向は続く。
		百貨店（販売促進担当）	・夏のボーナスへの期待もままならない中、価値と価格へのシビアさは当面続く。
		百貨店（店長）	・消費者を取り巻く環境が厳しい中、当店を取り巻く競合環境変化により、衣料品関連はやや回復傾向にあるが、ゴールデンウィーク以降の状況には不透明な部分が多く、厳しさは続く。
		百貨店（営業企画担当）	・下げ止まった感じはあるが、ここから回復へはもう少し時間がかかる。
		スーパー（仕入担当）	・各社が価格訴求を強くしている中で、客が買い回りをして必要な商品しか買わない状況は今後も続く。
		スーパー（仕入担当）	・新型インフルエンザの影響により、豚肉の敬遠、外出を控える等、消費の低迷が懸念される。
		コンビニ（経営者）	・いろいろな経済対策でやや持ち直したとは思いますが、客の購買意欲はあまり上昇しない。
		コンビニ（経営者）	・まだしばらくはこのままの状態が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポ導入より1年が経ち、たばこ、来客数共に前年割れの可能性が高いが、買上点数アップの対策を適時実施して、客単価アップが望めるので、総じて変わらない。
		コンビニ（商品開発担当）	・生活応援フェアを開催し、値下げを試みたが、その分販売数が増えなかったため、今後も厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	・イベントの回数を増やしているが、集客特価品だけの売上客が増えている。今後もこのようなことがしばらく続く。
		衣料品専門店（店長）	・スーツの需要が伸び悩んでおり、これから始まるクールビズに向けてスーツが動かない分、単価の動きが悪くなるので、先行きも変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（営業担当）	・不景気で物を買わなかった客もこの状況に慣れ、次第に購買力も戻ってきている。
		家電量販店（店長）	・エコポイントの付与及び定額給付金の給付に伴い、今まで落ち込んでいた需要回復の兆しが見えてくる。需要が上がることで景気は底入れとなる感じがしている。
		乗用車販売店（販売担当）	・補助金制度の関係かもしれないが、少し市場が動き始めてきている。来店数も増えてきているが、購入に関してはまだ慎重なようである。売上はさほど伸びていないので、今後に期待したい。
		乗用車販売店（渉外担当）	・減税スタートにより対象車の販売量は伸長しているものの、景気不安定な状況は解消されず、身近な消費財の売上は依然として低迷模様である。需要が活気づくのは下期以降と思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・景気対策の1つで、一定年数以上使った車を廃車にすれば最大25万円の助成金が出るという話があるが、ユーザーには非常に分かりにくいという意見が多い。聞きにくる客は良いが、知らないままでも平気な客がいるようで、こちらから話をしても反応が悪い。
		乗用車販売店（販売担当）	・トラック輸送のメインは、鉄、自動車、建築関連だが、いずれも不況業種になってきているということで、まだ需要が大きく伸びることはない。2～3か月後は変わらないかますます厳しくなるという判断である。
		住関連専門店（統括）	・現時点では景気が良くなる条件が見当たらないので、ここ2～3か月は現状維持、もしくは若干落ち込む。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・来客数は目立った減少傾向にないものの、その数に比例して売上高の伸びが鈍化しており、購買意欲の低下がうかがえる。この状況は2～3か月後も変わらない。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・現在は入荷も安定していないため、入荷が安定してくれば少しは上向きになる可能性もある。
		その他小売〔ゲーム〕（統括）	・繁忙期である夏休み前という事もあり、新タイトルや注目作品が売り出される時期ではない。
		一般レストラン（経営者）	・大不況と言われているが、その状況に慣れてきた感じがある。工夫次第で営業益につながることもある。
		一般レストラン（経営者）	・景気が悪くなりケータリングのほうが少なくなって来たので、売上が少し下がるかもしれない。しかし、客足はそれほど変わらず、売上も今とそれほどは変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・景気がどこまで持ち直せるかよく分からないが、今、常連が付いている限り、3か月先も変わらず売上を維持できる。定額給付金の給付に関しては、今のところあまり影響はない。
		一般レストラン（スタッフ）	・場所と商売のやり方による。客はそう出し惜しみできるものではない。当社の本店は近隣の百貨店の撤退により場所が悪くなり景気が下向いているが、他の店舗は決して悪くない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後も特にこれと言って良くなるという材料は見当たらない。
		旅行代理店（従業員）	・大手企業が、成績優秀な社員や販売店等に対して提供する報奨旅行等をいまだに差し控えたままなので、先が見えない。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行の見積は来るものの成約にまでは至らず、受注件数は伸び悩んでる。
		タクシー運転手	・タクシー利用客の低迷は今後も続くだろうが、定額給付金の給付で回復する客に期待している。
		タクシー運転手	・今は先が不安なために様子を見て動けない状態で、客もそれなりに様子を見て動かない方が良いという判断しているように感じられ、この状態は続く。
		タクシー（団体役員）	・当地域では長いイベントが開催されており、週末は人の出も多いが、タクシー需要には結び付かず、今後も厳しい営業環境が続く。
		タクシー（団体役員）	・今以上に悪くなるとは思っていない。また、これ以上悪くなったらタクシーの仕事は成り立たない。
		通信会社（営業担当）	・定額給付金の給付等により消費の盛り上がり一部見られるが、どちらかと言えばアウトドア面である。テレビ業界はナショナルイベントもなく、地デジ普及、多チャンネル販売も現状が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・期限が迫る地デジ対策への興味が進む反面、地デジ対応テレビへの切替えも一段落していることを勘案すると、現状維持である。
		通信会社（営業担当）	・経済対策により導入されるエコポイント制度実施前の買換えや様子見の傾向が見られ、加入数の増加は見込めない。
		通信会社（営業推進担当）	・景気悪化の影響が解約条件として増えていることもあり、もうしばらくこのトレンドは変わらない。
		観光名所（職員）	・当地は観光地のため、昨年の実績を踏まえるとほとんど変わらないような状況である。また、昨年がかなり良い成績だったため、これ以上望むことはないのではほとんど変わらない。
		パチンコ店（経営者）	・3か月先は梅雨の時期であり、また7月は夏で暑くなってくる時期となる。梅雨の時期は厳しいかもしれないが、暑くなると商売は良いので変わらない。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・プロ野球関連の商品、サービスは順調ながらも、対戦カードや曜日により売行きに違いがある。また、高額な物と低価格な物とに人気が一極化する傾向が強い状況は変わらない。
		その他サービス〔語学学校〕（総務担当）	・先の見通しがきかない。良くなるのか悪くなるのかもはっきりしないが、ここ1年は変わらないと見ている。
		その他サービス〔フィットネスクラブ〕（マネージャー）	・景気も底をついた感はあるが、底のままで悪いままである。
		設計事務所（所長）	・やはり民間が非常に期待出来ない分、役所の仕事を確保するしかないようなことから、早くても6月以降にならないと良くならない。
		住宅販売会社（従業員）	・自治体独自の住宅ローンの助成制度が発表されたので、多少注文建築が動くのではないかと予想され、それに伴い買換えや土地の動きも出る。しかし、戸数に限りがあるので劇的に景気が変わるということはない。また、例年、年度末やゴールデンウィークに動きがあっても夏場に向かい、やや景気が落ちているので、総合すると景気は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅の生前贈与特例により、住宅の購買意欲が上がるかどうかは、これからの結果次第である。このゴールデンウィークの集客状況により、ある程度の効果の判別ができる。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・経済は底は打ったような気がするが、停滞したままで、復活の兆しは見えてない。
		やや悪くなる	
一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・高速道路料金引下げが始まって以来、土日の来客数が減少している。これからゴールデンウィークや夏の帰省時期を迎えるが、ETC割引によって消費者の動向は変化しており、割引が落ち着くまでは土日の落ち込みが続く。		
一般小売店〔茶〕（営業担当）	・競争見積等の激化が続き、これからも最安値更新で利益の少ない時期が続く。		
百貨店（管理担当）	・同業他社の動向も思わしくなく、互いに価格競争を止められないことから、客単価はますます低下し、企業に必要な利益もひっ迫する状況となる。		
百貨店（営業担当）	・婦人服、紳士服のファッション関連をはじめ、リビング関連、貴金属美術など、食品を除く商品が依然として低迷している。株価の低迷、円高、雇用不安による個人消費の冷え込みは当分の間続く。		
スーパー（経営者）	・3～4月の売上を見ると、悪い店が大分悪くなっている。近くの競合店が閉店した店は良いが、それ以外の店は以前に比べて悪くなっているため、この先まだまだ厳しくなる。		
スーパー（統括）	・客の買物動向を見てみると、広告で価格訴求した商品については行列を作っても買っていかうとする様子が見られるが、それ以外に何かを買い足していくという動きはあまり見られず、必要でない物については一切、手を出さないような買い方である。		
スーパー（統括）	・現状、消費は極めて厳しい状況にある。今後は生活防衛意識がさらに強まると予想され、景気は現状よりも更に悪くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・客の来店はあるが、セールも思ったほど売れず、店頭に並んでいる商品の価格は今までより全体的に下がっている。デフレスパイラルでは、一生懸命頑張っても、以前のように売上は上がらない。当店は周辺で工事をしている関係で、若干来客数が増加しているが、客単価の低下に歯止めが掛からないことが心配である。
		衣料品専門店（経営者）	・定額給付金の給付もあり、プレミアム付き商品券も発行予定になっているが、ここに来て周辺の企業の倒産が出始めているので、まだ先は見えない。
		衣料品専門店（営業担当）	・年配客の生活防衛意識が高まっている。また、それによる売上への影響も強くなっている。
		乗用車販売店（総務担当）	・景気打開策の実施がなされているが、そう簡単には、業績が上がるとは思えない。この難局を乗り越えるには、リストラ、減給しかない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・6月の薬事法改正に伴い医薬品販売が厳格になるため、客の購買が減る可能性がある。どのドラッグストア、薬局でも同じ対応をしていればよいのだが、当社は厳格に行う方針のため、客離れを危惧している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・法人宴会の先の予約、問い合わせが伸びない。予定が決まり実施が決まった宴会や、決定後にキャンセルになった宴会も含めて前年に比較して2割弱人数が減少している。また、先の宴会の問い合わせ件数が少ない。宿泊客も予約の伸びが非常に弱い。国内のビジネスマンが動いていない。もともと外国人宿泊は少ないので、外国人宿泊については大きな変化は無い。
		タクシー運転手	・今現在、他産業からかなり乗務員が入ってきて稼働が上がっていることが1つの原因かと思うが、最悪期は若干脱してきており、先行きにいくらかは明るさが出てきているようにも感じるが、まだまだ悪くなる。
		通信会社（総務担当）	・競合企業の強力な営業活動は、今後もしばらくは継続される。
		その他サービス〔結婚式場〕（従業員）	・金額設定が客のニーズと食い違ってきている。何年も設定が変わってないのに「高い」と言われることが増えてきている。しかし、値下げをしたら客が増えるという見込みもない。
		設計事務所（所長）	・仕事量が少なくなっていることが明白である。例年4～6月は普通でも仕事量が少ないうえに、非常に厳しい状況である。このような状況が続くと、他の倒産も出ると予測される。
		設計事務所（所長）	・長年の不況続きとこの経済の低迷の中で、建設界はとて大変である。明るい兆しが無い。
	悪くなる	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・通常、何か月か先の仕事が見えてきているところが、無期延期、保留状態のものが増えるなど、先の動向が見えなくなっている。今までこういったことはそうそう無かったが、大手だけでなく中小企業の案件も影響が出ている。
		百貨店（売場主任）	・不況に加え、新型インフルエンザの感染拡大といった、マイナスのファクターばかりがクローズアップされている。定額給付金の給付等によるプラスのファクターも無くはないが、現状打破できるだけの起爆剤にはならない。
		百貨店（総務担当）	・現時点では新型インフルエンザは国内では発生していないが、発生した場合、不要不急の外出は制限もしくは自粛することが予想され、食料品以外の売上が極端に悪くなる。
		百貨店（広報担当）	・3、4月と商況がますます悪くなっており、各種の経済対策も消費の現場では効果が認められないため、今後も好転材料が無いといってもよい状況である。
		百貨店（販売管理担当）	・春物はすでにマークダウンしており、客の消費動向を考えると今後もセール展開を強めざるを得ない状況である。このままセール強化が続けば、年末からのセール展開強化で1月のクリアランスが落ち込んだように、6～7月のクリアランス期の訴求力が低下する。加えてメーカーが生産を抑えているため商品が確保できず、売上は落ち込む。
		スーパー（店長）	・ただでさえ景気低迷の折、新型インフルエンザの報道が予想以上に報道されたことにより、豚肉の特売では、客が全く見向きもしないような状況となっている。そのような状況の中、3か月後の景気の見通しは、おそらく良くなるよりも悪くなる方向に進んでいく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・客単価の動きを見ても他のいろいろな動きを見ても、これと言った良い材料は無く、悪い材料ばかりなので悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・たばこのタスポ効果が一巡したこと、また、近隣に大型ショッピングセンター増床やオープン等、競合が更に激化したことで、厳しさが増している。
		衣料品専門店（経営者）	・大きく商材的には流行の変化が無く、業界的には前倒し的な初夏物に近い商品売っている。また常にセールの市場になり、プロパーの稼働率が低下し、粗利益の確保が難しい。
		都市型ホテル（支配人）	・2～3か月先は全く見えず、単価低減に歯止めが掛からない状態である。
		タクシー運転手	・一般企業の景気が持ち直すことは当然ありそうも無く、国会でタクシー新法案（特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法案）が通っても、どこまで共同減車がされるか疑問が残るので、当分の間タクシー景気は良くならない。
		通信会社（管理担当）	・夏期は販売量が落ち込む傾向にあるため、年末までに回復というのが現実的なトレンドである。
		通信会社（営業担当）	・客が買い控えや低価格サービスにシフトして、支出を減らしている様子である。
		住宅販売会社（経営者）	・金融機関からの融資が極めて厳しく、資金不足の状態が続いている。そのような状況の中で、ますます今後、不況に陥っていく。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人が上向きである。それに加えて個人の需要もあり、来店する客も増え、問い合わせの電話が多かったため、やや上向きである。
		建設業（経理担当）	・住宅関連減税が成立して、耐震改修や修繕等の依頼が期待できる雰囲気が出てきている。
		経営コンサルタント	・小売、サービス業では定額給付金の給付の効果が多少出てくる可能性がある。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・受注量の動きから、やや良くなる。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・不景気感から、客の財布のひもが固い状況は変わらない。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・安く、早くという顧客ニーズに答えるために仕事内容が煩雑になり、多忙な割には月間売上が前年度比マイナス17%減という結果である。しかし、商業施設やホテルなどのレジャー関係からの受注がわずかに増えているため、現状維持の状態がしばらくは続く。
		金属製品製造業（経営者）	・すべての客先の先行き動向が全く読めない状況にある。6か月前の売上額の半減以下が続いており、しばらく仕事量の増加は期待できそうもない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今の状況はほぼどん底の状態、これ以上落ちようがない所までほぼ落ちてきている。実際、4月24日～5月10日までゴールデンウィークができるのは初めての経験である。どん底から上がってくるのは、秋にならないと無理である。しかし、秋に上がってくるという読みは希望的観測であり、とにかく夏前は絶対に無理である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・大きな物件の引き合いを含め、引き合い状況は以前の80～90%くらいはある。これが本当に受注に結び付くのかどうか問題である。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・現在、取引先も様子見の状態である。
		通信業（広報担当）	・ユーザー層である小規模事業者の経営環境が良くなるには、まだ時間が掛かる。
		通信業（総務担当）	・価格を上下させるインパクトが見当たらず、変動する気配も感じない。
		金融業（従業員）	・業界全体の中で一部の会社が投資検討に入っただけであり、全体として動いている感じがしない。
		不動産業（従業員）	・土地価格に値ごろ感があり、購入希望者の引き合いは引き続き顕著であるが、売手側との価格差においてずれが生じており、成約件数はそう多くはない状況は続く。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない。
経営コンサルタント		・これ以上さらに悪くなるとは思えないが、良くない状況が今後も続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・良くなる要素が見えて来ない。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・もうそろそろ底を打つのではないかと考えている。今後の決算発表が気になるが、大体予想通りだとすれば、変化無しである。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・全く良くなるような要因が無いが、悪いまま皆が慣れてしまったというような状況である。
		食料品製造業（経営者）	・価格競争が始まってきている。
		化学工業（従業員）	・建設関係の販売量は減少しており、まだ安定していない。自動車、造船、その他も増加する見通しもない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・相対的に新規企画の立ち上げや開発に今一つ勢いが感じられず、見通しは不透明である。
		金属製品製造業（経営者）	・在庫がはけても販売が伸びなければ意味がない。
		その他製造業〔ゲーム〕（経営者）	・前年度、一昨年度に比べて、国内のゲーム市場規模が縮小し、今年度それを盛り返すだけの好材料が見当たらない。
		その他製造業〔鞆〕（デザイン担当）	・今の見積りが3か月後の現実であるから、当然売上も下がる。
		建設業（経営者）	・景気対策でやや良くなりそうだったが、新型インフルエンザによる猛威で後退しそうである。
		建設業（営業担当）	・鉄鋼資材などの建設資材が値下がりを始め、企業からの設備投資が動き始めたが、建設業の仕事が無いなか、業界内で投げ売りが始まっている。
		輸送業（所長）	・4月に入って客動向を調べるために客を訪問して話を聞いているが、やはり内容的に大変厳しい、という回答しか返って来ない。回復するような材料は今のところ見受けられない。
		金融業（審査担当）	・中古建設機械輸出業者は、世界的金融危機及び円高による影響が大きく、海外での建設機械需要の大幅な低下により、販売は低迷し、資金繰りが極端に悪化している。この状態がしばらく続く可能性を危惧している。
		金融業（支店長）	・取引先の客の倒産件数または自己破産件数が増えていることと、政府の緊急対策融資を結構皆が使っているが、それを返済する目的の売上がまだまだ戻って来ないということから、まだかなり景気は下向く。
		不動産業（経営者）	・事業用がめっきり減っている。法人の契約は更新時に必ず賃料の下げ交渉が来る。
		不動産業（総務担当）	・景気の低迷により退去するテナントばかりでなく、賃料の値下げを要求してくるテナントが増えてきている。当面は苦しい状況が続くことを覚悟しなければならない。
		広告代理店（経営者）	・年間契約が2本飛んだが、それを補ってやる案件のめどが全く立っていない。
		広告代理店（従業員）	・地元のイベントで盛り上がりつつあるが、景気が良くないせいで周辺が全然盛り上がっていない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・新年度の体制が整い、契約単価等の見直しが始まりそうである。
		悪くなる	
出版・印刷・同関連産業（所長）	・明るい話が全く聞こえてこない。本当に不安しかない。		
プラスチック製品製造業（経営者）	・全体に非常に動きが悪くなっており、景気が上向く可能性は全く考えられない。		
金属製品製造業（経営者）	・5月は休日を増やして、緊急の助成金の申込をすることになっている。多少注文があっても、量的には全然どこにも足りない。		
輸送業（経営者）	・緊急経済対策、また補正予算等が打ち出されているが、その実行効果が出て来るのが数か月後になるかと思われる。しかし、今の景気が非常に落ち込んでいるため、商品まですぐ結び付くかどうか、非常に疑問である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（経営者）	・ どの得意先を回っても良い話は無く、何とか持ちこたえるのが精一杯で、いつまでつなぎ融資が続くかが問題である。
		輸送業（総務担当）	・ 新年度の出荷計画が例年の予定数値を大幅に下回っている。例年ゴールデンウィーク明けから稼働するが、今年は出荷が例年並みになるのか全く読めない状態である。
		金融業（支店長）	・ 下請企業によれば受注はやや回復し、底打ち感はあるが、回復は緩やかである。運転資金需要発生はこれからで、金融機関から円滑に新規融資が受けられないと資金繰りが破たんするケースも出そうである。
		経営コンサルタント	・ 某市の事業者団体は総会を控え、新年度役員の人選が難航している。この時期、できれば仕事以外に時間を取られたくない、というのが皆の本音である。ペースアップ、夏季賞与に期待出来ないことが次第に明らかになり、家計消費への影響は、これから本番と踏んでいる人が多い。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・ いくつかの企業で全く新しい業種への転換やサービスの質的な変化を計画しており、その計画に基づいて人員の増加を必要とする局面があるかもしれない。また、年初から4か月を経て、全然だめだというような企業がそろそろ違った動きをする所があるかもしれないので、そういう所の募集がある程度見込める。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・ 経営者たちは、今はかなり底に来ている悪さであり、これ以上悪くなることはない、変わらないと言っている。ただし、良くなる条件、項目がほとんど見当たらないと大言い、しばらくはほとんど変化が無いという状況である。
		人材派遣会社（支店長）	・ 企業都合による契約終了数が減ってきているが、いまだ底が見えず、向こう3か月は同じ傾向が続くそうである。
		人材派遣会社（営業担当）	・ 労働市場の回復は一般景気が回復して数か月後になるため、まだしばらくは景気低迷が続くそうである。
		人材派遣会社（営業担当）	・ 3月末に終了した契約が多く、4月以降雇用数は回復していない。少ない求人を各社で争っている状況である。景気の底冷え感が強く、企業が採用を抑える傾向は変わらない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・ 求人件数が若干持ち直してきているように思われるが、それ以上に求職者の増加があり、採用案件より求職者数が多いため、企業が抱えきれない状態に陥っている。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・ 短期的な求人はあると思うが、正規雇用を始め求人の職種や採用数が増える要素は今のところ見受けられない。定額給付金の給付及びエコポイントの付与、高速道路料金引下げなどの効果がどのくらい景気を底上げするか注目したい。
		職業安定所（職員）	・ 人員整理や倒産による離職者が依然として多くなっている。また、求人数も大幅に減少しているため、今後も同じような状況が続く。
		職業安定所（職員）	・ 世界的金融危機を背景に雇用失業情勢は下降局面にあり、派遣労働者や期間工等の非正規雇用労働者を中心に大量離職が発生し、それが正社員まで広がっていく。
		職業安定所（職員）	・ 求人数はそれほど増えていないので、これから就職に結び付く就職者数が増えることは予測されない。
		職業安定所（職員）	・ 3月は年度末に向け、再就職援助計画、大量離職届が例年になく多数提出されたが、4月は現在のところ例年と変わらない状況であることから、人員削減は一段落ついたものと考えられる。しかし、希望退職者の募集が企業が予定していた人数に達せず、募集期間を延長するなどの動きも見られる。
	学校〔専門学校〕（教務担当）	・ 求人企業数が4月中旬現在で昨年より約30%のダウンとなっている。また、全体的に初任給が低くなっている。	
	やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・ 新たな雇用を生むようなニーズの派遣依頼が見込めない。
		人材派遣会社（業務担当）	・ 派遣等の非正規雇用の労働者だけでなく、正社員も余剰になってしまい、解雇できないので全く経験したことのない職場へ異動させる、というような人事異動を客先で目にする事が多くなっている。このような状態ではまだ景気は下向きと判断せざるを得ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ 人材採用予算は確実に今より減少する。予算は取れないかもしれない、見えないと言う客の声が多い。
		民間職業紹介機関（経営者）	・ まだ状況が見えず、採算が取れる状態には全くなっていないことから、このような状態が続く、または更に悪くなる可能性がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・採用予定企業の募集凍結連絡が増加している。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人票が少ないので、昨年学生を採用してくれた企業に今年度も学生の採用をお願いしたところ、中小企業等ではまだ採用の予定が立たないとの返事が多い。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・コスト低減及び3月末契約打ち切りの影響が今後かなり出てくる。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の支給申請が増加の一途をたどっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・良くなる兆しが無い。同業者で廃業するところが多い。

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	商店街（代表者）	・省エネ家電のエコポイント制度が導入される。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・高速道路料金引下げや定額給付金の給付の効果が、今後も現れる。
		一般小売店〔惣菜〕（店長）	・周囲の小売店では、売上が回復している店もある。自動車生産が底打ちすれば、景気は少し上向く。
		百貨店（販売担当）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げの効果に加えて、減少が予想されるもののボーナスも支給されるため、多少は良くなる。
		百貨店（販売担当）	・買い控えは続くが、セール品に対する客の反応は良い。夏のセールは、改装効果と今までの落ち込みの反動により、前年並みとまではいなくても、ここ数か月間の最悪の状態よりは良いと見込まれる。
		スーパー（総務担当）	・客単価は低下しているが来客数は2%増えているため、今後はやや良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・自動車産業では在庫調整が進み、下げ止まっている。また、中国経済も回復基調にあると聞くため、輸出産業が復活する可能性がある。そのため、今後はその波及効果を見込める。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカーへの買換え補助金や定額給付金の給付等によって、購買意欲は向上する可能性がある。
		乗用車販売店（従業員）	・新車買換え補助金の効果が出てくる。
		乗用車販売店（従業員）	・ハイブリッド車の売行きが好調になれば、地元の自動車メーカーも好転し、この地域は良くなっていく。また、新市長次第では、景気が上向く効果もある。
		乗用車販売店（総務担当）	・新車買換え補助金の効果が出てくる。
		一般レストラン（従業員）	・地元では、5月下旬に定額給付金が給付されるため、需要が増える。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・市長が変わり、総選挙でも変化があると、明るい兆しが出てくる。
		旅行代理店（経営者）	・現在受注している客は団体やグループが中心であり、個人客の動きはまだ鈍い。しかし定額給付金が給付され始めると、これから夏場に掛けて、個人客が増加する。
		タクシー運転手	・大手自動車メーカーの生産は、5月には回復すると聞いている。それに伴い、関連企業の動きも出てきて、タクシー利用も多少は増加する。
		通信会社（企画担当）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げの効果が、心理的な面も含めて出てきつつある。
		テーマパーク（職員）	・様々な景気対策が打ち出されるため、観光業にとっては追い風である。
		テーマパーク職員（総務担当）	・景気の底は脱しており、今後はやや良くなる。
		変わらない	商店街（代表者）
		商店街（代表者）	・客の様子を見ても、今後良くなるとは考えられない。ただし、現在が非常に悪いので、これ以上悪くもならない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・当社の売上は、引き続き拡大する。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・新しい飲食店が開業したり、既存店が新たな取り組みを行っているため、今後は少しずつ回復する可能性もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔薬局〕 (経営者)	・地元の地場産業は壊滅状態であり、廃業が続出している。このような状態のため、厳しい状況は当面続く。
		一般小売店〔自然食品〕 (経営者)	・今後景気対策が出そろつが、総選挙等の新たな展開がないと、消費者心理は大きくは変わらない。
		百貨店(企画担当)	・ファッション商材の売上の落ち込みは、今後も継続する。カード会員向けのセールやワゴンセール、物産展等を予定しているが、明るい兆しは見えない。
		スーパー(経営者)	・夏のボーナスはここ数年で最低になると予想されるため、消費の低迷は今後も続く。
		スーパー(店長)	・定額給付金の給付が始まるが、新型インフルエンザ等の不安要素も出てきている。
		スーパー(店長)	・商圏内の自動車関連企業では、残業や夜勤があるのは一部の工場のみである。今後もこの状態が続き、従業員の収入も以前の水準には戻らないため、現状が続く。
		スーパー(営業担当)	・ゴールデンウィーク後には、財布のひもは固くなる。客が価格で動く状態は続くため、客単価は上がらない。
		コンビニ(エリア担当)	・タスポ効果による好調は、当面継続する。
		コンビニ(店長)	・4月前半の客の動きは、多少良くなっていた。しかし、ここ数日間は、2、3月のように低迷している。そのため、今後数か月間もあまり変わらない。
		衣料品専門店(経営者)	・商品単価は低下するが、販売量が増える要素はない。そのため、売上はますます減少する。
		家電量販店(店員)	・省エネ家電のエコポイント制度が始まるので、悪くはならない。しかし、良くなるかどうかは分からず、不透明である。
		乗用車販売店(従業員)	・5月に新型車が発表されるため、店頭には活気が出る。しかし、例年のようなボーナス需要は期待できない。市場環境は相変わらず厳しいが、新型車以外の車もアピールして、商談件数や販売台数増やせるようにしたい。
		乗用車販売店(従業員)	・自動車の仕入も厳しくなっているため、先行きに関してあまり楽観視はできない。
		乗用車販売店(従業員)	・エコカー購入への新車買換え補助金の詳細がなかなか決まらないなど、今後数か月間で販売増が見込める要素はない。新型ハイブリッド車の予約はかなり入っているが、納期が未定のため、当面の登録台数の増加には結び付かない。
		スナック(経営者)	・客は会社の経費を使えないため、単価に厳しくなっている。帰宅する時間も早く、夜11時以降は客がいない状態が続いている。しばらくはこの状態が続く。
		観光型ホテル(販売担当)	・今後景気対策の効果が徐々に現れ始めても、サービス業に影響が及ぶのは、そのもう少し後になる。
		都市型ホテル(支配人)	・夏以降の宴会の引き合いが減少している。出張の減少も含めて、取引先の多くが今期いっぱいはこの状態が続くと言っている。
		都市型ホテル(従業員)	・予約数は、これまでとあまり変わらない。
		都市型ホテル(営業担当)	・今後も、自動車関連の製造業を中心に、ホテルの利用は落ち込んでいく。
		旅行代理店(経営者)	・商品単価が安い、高いという以前に、旅行するかどうかを様子見している客が多い。
		旅行代理店(経営者)	・節約志向はしばらく続く。
		旅行代理店(従業員)	・定額給付金の給付によって、レジャーに使われるお金が増えるため、全体としては下げ止まる。
		タクシー運転手	・前年10月ごろから悪くなって、以降悪い状態が続いているため、当分悪い状態が続く。
		タクシー運転手	・賃上げする企業がほとんどないなど、景気回復につながる材料はほとんど見当たらない。ただし、新市長の就任は好材料である。
		通信会社(営業担当)	・次世代ネットワークのエリア拡大に伴い、契約件数が更に増加すれば良くなるが、当面は現状維持である。
		観光名所(案内係)	・新型インフルエンザの発生等により、非常に不安定になっている。少なくとも夏場までは、良い方向には向かわない。
		ゴルフ場(企画担当)	・2、3か月先の来場者数は、ほぼ目標や前年並みである。しかし、単価が高い休日の予約が全部埋まらない。
		美容室(経営者)	・客との会話では、当分仕事がない状況が続くという話をよく聞く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・福祉用具貸与サービス業界では、主力のレンタルベッドの新型が続々と発表される。しかし、仕入原価は現行機種の約1.5倍になるにもかかわらず、レンタル価格は下落傾向にある。
		住宅販売会社（従業員）	・契約数の推移を見ると、様子見が続いている。抜本的な景気対策でも打ち出されない限り、契約数は伸びてこない。
		住宅販売会社（従業員）	・長期固定金利商品による全額融資の開始や長期優良住宅の普及促進といった好材料はある。しかし、長期優良住宅の建築には費用増加とそれによる価格上昇が伴う。スーパー等での低価格志向に鑑みると、消費者がどのような判断するか不透明である。売れても結局薄利となると、建築業者の経営状況は現状と変わらないか、それ以下になることもありうる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・新型インフルエンザの問題が出ているため、2、3か月後にはもう少し悪くなっている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・自動車関連企業が多い当地域でも、自動車の増産が始まる程度では、景気回復には結び付かない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・人々が付き合いの範囲を狭くする傾向は今後も続くため、贈答品店では、この先もしばらくはやや悪くなっていく。
		百貨店（企画担当）	・消費の悪化が底を打つには、まだ半年ほど掛かる。総合スーパーがプライベートブランド商品を中心に極端な低価格戦略を打ち出している現状では、百貨店も含めた幅広い消費がすぐに伸びることは期待できない。
		百貨店（売場主任）	・欲しい物があっても今は我慢するという慎重な姿勢は、まだまだ続く。
		百貨店（経理担当）	・販売量、来客数共に低調な状態が続く。
		百貨店（販売担当）	・夏のボーナスの支給額は減ることが明らかであるため、買い控えが起きる。また今後、低単価商品の売行きも減ってくると、売上点数は現状維持であるため、売上の減少は一層顕著になる。
		スーパー（経営者）	・3月に大幅に落ち込んだが、今は若干改善されている。今後は若干悪くなる程度で済む。
		スーパー（店長）	・消費者の低価格志向はまだ続くため、各社の値下げ競争は一段と激しくなる。生き残るためには、費用の抑制が重要である。定額給付金の給付は、食品の消費回復には効果はない。
		スーパー（店長）	・新型インフルエンザ等の流行で、食品に対しての購買意欲は、更に低下する。
		コンビニ（経営者）	・客の消費姿勢は、我慢の一言に尽きる。具体的には、消費者はビールから発泡酒へ、発泡酒から第3のビールへと乗換えたり、1500円のワインから600円のワインへと乗換えたりしている。このような慎重な姿勢は、今後も続く。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポの導入から1年が経過し、特需も一巡する。そのため、売上は前年同月比で90%ほどに落ち込む。
		コンビニ（店長）	・コンビニでの宅急便の取扱数量は、相当減少してきている。全体的に経済が停滞しているため、今後も厳しい。
		衣料品専門店（売場担当）	・ボーナスの金額が減少するため、ボーナス商戦でも買い控えは続く。
		家電量販店（店員）	・地元の製造業の稼働率は20%ほどであり、残業も全くないと聞いている。6月に短期の契約社員がリストラされるとの話も聞いている。正社員のボーナスも減るため、今後は一段と厳しくなる。
		家電量販店（店員）	・来客数の減少は前年10月から続いているが、この傾向は今後も続く。ただし、今後政府の景気対策の効果が出てくれば、少し悪いだけで済む可能性もある。
		乗用車販売店（従業員）	・今後、特別仕様車が発売されることに加えて、新車買換え補助金の効果も期待されるが、客の購買意欲は低いため、今後も今の実績を維持するのが精一杯である。ETCの特需があっても、あと2か月ほどは入荷しない。また、入荷しても少量のため、売上の増加には寄与しない。
		住関連専門店（営業担当）	・新築住宅は、政府の景気対策の効果により、やや良くなる。しかし、それ以外の一般の新築や企業の設備投資は延期、中止が続いて、当面は良くならない。
		観光型ホテル（経営者）	・7、8月の予約状況は、前年同月と比べて、本当に悪い。特に地元客の動きが悪くなっている。
		旅行代理店（経営者）	・4月までは順調にきたが、今後は新型インフルエンザの悪影響が出てきそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（サービス担当）	・新サービスやキャンペーンが始まれば、販売数は伸びるかもしれない。しかし、低価格な他社サービスへの移行も増えそうである。
		理美容室（経営者）	・客との会話では、これから景気が良くなるという話を聞かない。
		設計事務所（経営者）	・企業案件は低調な状態のままだが、個人住宅の計画が少しずつ増えている。
		設計事務所（営業担当）	・貯金が底を付くという家計も増え始めており、今後も引き続き厳しくなる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・個人ユーザーの動きはまだ活発であるが、取引先企業からの見積りや引き合いはほとんどない。そのため、今後はまとまった仕事が減少する。
	悪くなる	商店街（代表者）	・企業業績は、非常に悪くなっている。また、景気対策も家電や自動車などに偏っているため、それら以外の分野では厳しい状況が続く。
		百貨店（売場主任）	・2～3か月先でも、商品は変わらないため、やはり悪くなる。月末には値引き商品を販売するが、様子見の客ばかりである。
		百貨店（外商担当）	・株価の低迷や先行き不安に加えて、新型インフルエンザの発生と、将来のマイナス要素ばかりがある。
		スーパー（経営者）	・自動車関係企業の回復が遅れているため、客の収入は更に減り、客は安い商品しか買えない。また、余分な物は絶対買わない。
		コンビニ（店長）	・現状の打開策は、商店レベルでは見つからない。
		コンビニ（企画担当）	・コンビニの売上は、6月には前年同月比で4～6%減少すると見込まれる。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・消費者の節約志向が高まっているため、定額給付金が給付されても販売には結び付かない。売上は増加しない。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約件数が減少している。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・景気対策の効果はなかなか現れないため、しばらくは一層悪くなる。
		旅行代理店（経営者）	・新型インフルエンザの発生に伴う出張の減少などの影響が、今後数か月間は続く。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの発生により、ゴールデンウィークの海外旅行をキャンセルしたり今後の海外旅行の申込みを抑えたりする客がある。また、海外渡航を中止する企業もあり、先行きについては非常に懸念される。
		ゴルフ場（経営者）	・3か月先の予約の動きは昨年までとまったく違い、20%以上のマイナスで推移している。価格を安くしても動きは鈍い。
		理容室（経営者）	・まだまだ景気が良くなる見込みはない。定額給付金が給付されても、一時しのぎである。
		設計事務所（職員）	・例年と比べると、今後の仕事量は大幅に減る。
住宅販売会社（経営者）	・ほとんどの客が、先行きが不安で住宅を購入できない様子である。		
住宅販売会社（従業員）	・現在建築中の新築住宅の契約以外に、未施工の工事残は少ない。リフォーム等でやっとしのいでいる状態では、今後の利益確保は難しい。また、同業者の倒産は、景気をより悪化させる可能性がある。		
企業動向関連	良くなる	-	-
		-	-
	やや良くなる	紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・今年は夏場に掛けて、食品用の段ボール需要が上向く見込みである。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・取引先はこれまで、先行き不安から在庫を圧縮してきたが、今月に入り短納期の発注が多く入るようになってきている。在庫の整理が進んでいることと、先行き不安が薄れてきたことによる。今後、受注量は、少しずつ回復していく。
		建設業（総務担当）	・底が見え始めてきたため、今後はやや良くなる。
		輸送業（経営者）	・複数の取引先から、自動車関連企業では5月には底を打って、回復に向かうとの情報を得ている。
		不動産業（開発担当）	・様子見で購入はまだという客は減ってきており、今後は良い家で適正価格ならば購入するという客が増えてきている。
		行政書士	・取引先の運送業では、食品の輸送量は安定しており、今後はやや良くなる。
会計事務所（職員）	・建設業者では、6月以降の受注は少しずつ入ってきている。また、定額給付金の給付が今後進むため、小売関係では今後しばらくは回復が見込める。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・現状の受注量、販売量がこのまま続く模様である。	
		鉄鋼業（経営者）	・非常に悪い状態から脱する兆しはない。自動車メーカー等から発注予定が多少出てきてはいるが、仕事量は前年同月の2～3割である。	
		一般機械器具製造業（営業担当）	・新規の設備投資計画や、これまでに中止、延期になった設備投資計画の再開に関する情報は、全く入ってきていない。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	・政府の景気対策もあり、景気の底打ちを予想する人もいる。しかし、財政悪化に伴う将来の増税に対する不安と、年金問題を始めとする社会保障に対する不信感により、消費を控えるという人は相変わらず多い。そのため、国内生産の低迷は当分続く。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在の製品の出荷量が、この先半年間ほどは続くと考えられる。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・底が見えない状況は変わらない。ハイブリッド車などに一部明るい兆しが見えるだけである。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の話聞いてみると、生産量が短期間で上向き可能性は非常に低い。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	・消費意欲は冷え切っているため、景気対策によっても景気が良くなることはない。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・今の状況が夏まで続くと、完成車メーカーから言われている。回復するにしても、秋以降に少しずつ戻ってくる。	
		輸送用機械器具製造業（統括）	・主力取引先が新製品を開発し、8月に販売予定であるため、その状況次第である。	
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・在庫調整は進んでいるものの、販売は上半期中には回復しない。そのため、損益分岐点を割り込むことが想定される。	
		輸送業（従業員）	・製造業比率が高い地域では、景気回復にはアメリカの景気回復が不可欠であるが、その兆しが見えてこない。	
		輸送業（エリア担当）	・消費の拡大、生産の拡大が見られないため、物流の改善も期待できない。	
		輸送業（エリア担当）	・素材や原材料の川上のメーカーの動きが悪いため、景気低迷は当分続く。	
		輸送業（エリア担当）	・主要荷主の一部では、6月ごろから通常の生産に戻すとの話もある。	
		通信会社（法人営業担当）	・政府の景気対策の効果が現れるのは半年ほど先であり、それまでは悪い状況のまま推移する。	
		通信業（営業担当）	・取引先企業の来期の決算見込みも低調である。年内に回復することは難しい。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込広告の復活は見込めない。	
		会計事務所（社会保険労務士）	・今後注文が増えるとしても、少しずつである。休業しなくてもよくなるまでには、時間が掛かる。	
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・現状が非常に悪い状況であるため、今後これ以上悪くなるとは考えられない。	
		やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・原油価格が安定してきているため、一部の原料や副資材の価格は低下している。これにより販売価格も低下しつつあるが、原材料の低下以上に値下がりしている。今後も販売量は増えてこないため、収益悪化につながる。
			出版・印刷・同関連産業（経営者）	・3月決算期に企業訪問を行なったが、ほとんどの企業から、業績悪化に伴い今期は広告宣伝費を含めて経費を削減すると聞いている。
			化学工業（企画担当）	・世界同時不況に底が見えないことに加えて、新型インフルエンザが発生している。今後は各方面への影響が懸念される。
化学工業（人事担当）	・新型インフルエンザの景気の及ぼす影響は避けられない。定額給付金の給付も、一時しのぎである。			
金属製品製造業（従業員）	・受注残が少なくなっているため、今後売上が減るのは明らかである。			
一般機械器具製造業（経理担当）	・取引先の3か月先の生産見通しは、先月は「底打ち感がある」であったが、今月は厳しい方向に見直しされた。そのため、今後は経営の維持が一段と厳しくなる。			
建設業（経営者）	・建設業や不動産業の一部で底打ちが見えてきたとの報道もあるが、全体が回復するにはまだ少し時間が掛かる。			
輸送業（エリア担当）	・利益が減ってきているため、会社はパート社員の時給を減らし始めている。このように、身近でも負の連鎖が始まりつつあるため、今後も景気は引き続き悪化する。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（企画担当）	・夏のボーナスも含めて、今後は個人所得への影響が本格的に出てくる。当面、景気は悪くなる。
		広告代理店（制作担当）	・今年度は、広告予算を減らしているという企業が多い。
		経営コンサルタント	・定額給付金の給付も、不動産市場には関係がない。
	悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・営業先からの情報でも、受注見込みは減少している。
		広告代理店（経営者）	・企業や自治体の関連予算に期待が持てない。自治体の入札価格も、考えられないほどの低水準である。
		広告代理店（営業担当）	・特にメーカーからの出稿量が激減している。一般企業の業績に改善が見られない限り、広告の出稿量はこれ以上増えない。
	公認会計士	・自動車関連企業の回復は、アメリカ経済の回復が遅いため、まだ望めない。自動車関連企業では、これまでの設備投資による固定費の増加が重しになっている。それに対して、地域の金融機関の貸出姿勢は極めて消極的である。	
	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・取引先の状況は、しばらく改善しない。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・5月には、生産調整に伴う休業は減少すると見込まれる。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・企業による雇用調整は一段落しているが、生産計画を見ると、今後増員する状況にもない。そのため、今後も厳しい雇用環境が続く。
		人材派遣会社（営業担当）	・企業の在庫圧縮が進んだことに加えて、中国を始めとした海外需要にもある程度の回復が見られる。しかし、底堅いとは言いがたい。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・下げ止まり感はあるが、派遣注文が増加するにはまだ3～4か月は掛かる。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・現状は極めて悪いが、これから更に悪化する材料はない。
		職業安定所（所長）	・景気の先行き不透明感から、企業は求人を手控えている。この状況は今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・今後も新規求職者数は減少に向かいそうになく、新規求人数の増加も見込まれない。そのため、今後は求職者数が積み上がっていく。
		民間職業紹介機関（社員）	・求人数が回復する兆候は特に見られない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営企画）	・派遣社員の雇止めは、規模は小さくなるものの、今後も引き続き予定されている。
		人材派遣会社（支店長）	・自動車メーカーや自動車部品供給企業の4月の売上は、前年同月の半分ほどの水準にある。そのため、5月に現在より増産した後でも、生産水準は前年同月の6割強にとどまる。また、新年度の年間損益の見通しも各社で赤字と厳しいため、各社は引き続き固定費の削減に向けて動く。6月以降に満了となる派遣契約を、早々と打ち切ると連絡してきた企業もあるほどである。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・新型インフルエンザの発生など、今後の更なる悪化要因がある。
		職業安定所（職員）	・採用者が増えない限り、消費者の購買力も高まらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・先行きが不透明であるため、企業は採用に慎重になっている。採用活動は長引く。
	悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・3月末で派遣契約が終了した人材を、新たに派遣できない状態が続く。また、今後新たな解雇が増えることも予想される。
人材派遣会社（社員）		・人材紹介の求職者登録数が増加している。その理由としては、企業からの退職勧告や早期退職が多い。	
人材派遣会社（社員）		・新年度に入り、派遣求人が減少している中、長期の注文は前年同月比で30%減少している。企業では、回復の目処がまだ立っていない。	
人材派遣会社（営業担当）		・親会社の物流部門が回復する兆しは、全く見えてこない。	
新聞社〔求人広告〕（営業担当）		・まだ景気の底は見えていないため、2～3か月先に景気が良くなるとは思えない。	
新聞社〔求人広告〕（営業担当）		・2010年卒業者向けの就職ガイダンスへの参加社数は、前年と比べるとほぼ半分であり、前々年と比べると4割になっている。特に中小企業の新卒採用は、超氷河期に入りつつある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・大量離職の情報が、まだ入ってきている。6月ごろには景気は上向くと報道もあるが、雇用情勢は今後も悪化する。

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔書籍〕 （従業員）	・定額給付金の影響もあり、顧客の消費動向も上向いてくる。
		コンビニ（経営者）	・定額給付金の給付が行き渡り、様々な景気対策が報道され、これらのアナウンス効果から財布のひもが緩むことを期待している。
		家電量販店（経営者）	・店頭での接客においても、以前ほど先行きの不安感を語る客が少なくなった。
		家電量販店（店長）	・エコポイントの活用によるグリーン家電普及促進事業により買換え特需が起きる。特にTVはアナログ放送終了まで2年となり、このポイントはかなり期待ができる。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型ハイブリッド車が5月から発売され、予想以上の人気で当面続き、販売の上乗せが期待できる。
		自動車備品販売店（従業員）	・経済政策が消費につながり、一時的には好転する。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・前月までは消費者は必要で安いものしか購入しなかったが、今月に入って徐々に健康食品や化粧品などの付加価値商品が売れ始めている。この流れが続くものと期待している。
		旅行代理店（従業員）	・景気の下げ止まり感が、企業の販売促進・需要促進に影響を与え、団体旅行やMICE（コンベンション等）市場に活気が出てくると期待が持てる。
		通信会社（職員）	・地元の高速度道路の通行量が徐々に増加していることが実感でき、消費意欲は若干上向くと期待できる。
	通信会社（社員）	・携帯電話の新機種発売効果に期待している。	
	通信会社（営業担当）	・新商品の発売により、若干の売上増加は見込めるが、端末価格が高いため大きな売り上げ増にはつながらない。	
	住宅販売会社（経営者）	・見込み客の動向がやや良い。	
	変わらない	商店街（代表者）	・4月ですでに真夏日を記録した日もあり、今年も早くから暑くなりそうである。一気に暑くなることで、人出がまた減るのではないかと危惧している。
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・競合店のリニューアル等により販売は苦戦している。定額給付金の給付などの施策により客の買い回りモチベーションを上げていく。
		百貨店（売場担当）	・消費者の消費意欲が全く感じられない。
		スーパー（店長）	・定額給付金の給付により、消費者の購買意欲は若干上がるであろうが、売上は瞬間的で大きな変動はない。
		スーパー（営業担当）	・定額給付金は食料品に消費される傾向があり、景気の底上げにはつながらない。消費者は無駄遣いはしない。
		コンビニ（経営者）	・近隣に競合店の開店が予定されており、当初は売上が減少するものの、同時期開催のイベントによる売上増が期待され、相殺される見通し。
		コンビニ（店長）	・今が下げ止まりの感があるが、しばらく現状が続く。客の話では、会社はこれ以上悪くならないとしており、産業界の回復とともに経済は良くなっていく。
家電量販店（店長）		・消費を刺激するような施策が不明瞭である。企業の減収により、給与・賞与などの減額が予想されるため、消費の落ち込みが予想される。	
乗用車販売店（経営者）		・軽自動車やハイブリッド車に偏った需要が中心で、全体の需要を押し上げないと販売量悪化のイメージは変わらない。	
高級レストラン（スタッフ）		・観光地であるだけに高速道路料金引下げには期待をしているが、現状の予約状況では明るい兆しは見えてこない。	
観光型旅館（スタッフ）	・予約は前年を大きく下回っており、底はまだ見えない状況にある。4月からの四半期は前年比20～30%減を見込んでいる。		
通信会社（役員）	・地上アナログ放送の終了まで残り2年余りとなり、消費者の意識の高まりとともに、当社経営資源もデジタル契約増に重点投入を予定しており、引き続き契約者数の増加が期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	・個人は4月から給与減額などで可処分所得が減り、消費行動はいっそう慎重になる。
		百貨店(売場主任)	・依然、政局も不安定であり、定額給付金の給付も大きな消費効果を生み出すにはまだ時間がかかりそうである。また、サラリーマンは給与減額のカバーで終わり、プラス消費を見込めない。
		スーパー(総務担当)	・近隣にある工場の稼働日数がまだ増加していないため、今後も消費の減少傾向は収まらない。
		コンビニ(経営者)	・低価格商品の動きだけが非常に良く、一点買いをする消費者が目立って多くなってきた。今後も客単価の下落傾向が続く。
		衣料品専門店(経営者)	・最近の新型インフルエンザの報道などにより、外出を控えることが予想され、売上が低下することを心配している。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・世界的な経済の落ち込みは当面続く。また、新型インフルエンザの影響により、人の動き、物の流れ、金の流れが悪くなる。
		一般レストラン(スタッフ)	・新型インフルエンザの影響で海外旅行者は減り、外出自体を控える人が増える。さらに、大手の各外食産業がランチセットなどを値下げしてきており、中小企業が価格競争で値下げしても利益を圧迫し、人件費の削減になりかねない。また、来年の新卒採用を控える企業、営業所の統廃合による人員削減などコストを抑える傾向にある。
		スナック(経営者)	・もう一段下がる気配があるとの話や、一部動きがあるところも出てきたが、全体的には悪いままであるとの会話を耳にする。
		観光型旅館(経営者)	・売れている商品は低価格商品のみであり、また予約の間際化により先行きが読みづらくなっている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・利用客数の低迷が続く不安材料となっている。特に法人利用に先行き不透明感が強い。
		都市型ホテル(スタッフ)	・予約は今一つであり、リニューアル効果も薄れつつある。
		タクシー運転手	・依然として明るい材料がない。また、高速道路が安くなったため、週末にはマイカーでの観光客が以前より増加し、タクシー利用が減少し厳しくなる。
		タクシー運転手	・4月後半には増えたタクシー利用であったが、一時的なものだと判断している。来月以降は元に戻る。
		競輪場(職員)	・購買単価が下がる傾向に歯止めがかからない。
悪くなる		一般小売店〔事務用品〕 (営業担当)	・取引先からは、6、7月は公共事業の予算が執行されない時期であり、今から建物投資や設備投資など民間に営業を仕掛けるしかなく、現状からは浮揚する要素が見つからない、と聞いている。
		百貨店(営業担当)	・高速道路料金引下げで客はアウトドア関連の活動に関心が向いており、百貨店のファッション関連の支出に対する優先順位は低い。また、夏に向けての季節商材の生産・供給状況は前年の半分程度しかない。そのため小売店にも商品が回ってこず、売る機会さえ減少する見通しである。
		百貨店(営業担当)	・売上実績に回復の兆しがないまま、販売側の体力切れが目立つようになってきており、見通しは暗い。
		衣料品専門店(経営者)	・来客数が増えているが売上が増加しない。客の財布のひもが固い証拠である。このままでは、安い商品にばかり目が行き、従来どおりの売上を上げるには難しい。安い商品を投入しながら、売上を上げられる方法を見つけていくしかなく、現状の悪さが続く。
		住関連専門店(店長)	・客が増加する兆しがなかなか見えない。見込みがたない。
		旅行代理店(従業員)	・粗利の高い団体旅行などの落ち込みが激しく、完全に赤字になる。
		テーマパーク(職員)	・企業、団体や募集旅行については先行きの予約状況が大変厳しくなっている。一方、個人旅行は、消費の冷え込みが予想され下ぶれする可能性がある。
		住宅販売会社(従業員)	・地域基幹産業が不況に伴い大幅な人員整理を発表した。地域経済に与える深刻さが一段と表面化し、他の主力業種も自宅待機などで景況が回復せず、将来の雇用不安が深刻化している。
		住宅販売会社(従業員)	・毎年春の需要は4、5月には感じられるのだが、今年は前年比約3割減の契約状況であり5月に向けての見込み客の動きが非常に少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	繊維工業（経営者） 電気機械器具製造業（経理担当） 輸送業（配車担当）	・衣料以外の車両関連でわずかながら動きが見られる。 ・底を打った感がある。回復と後退を繰り返しながら徐々に良くなっていくことを期待している。 ・現在が底であり、連休明けからは少し荷動きが良くなる。
	変わらない	プラスチック製品製造業（企画担当）	・受注の状況をみても、現状より良くなる要素がない。回復するには6か月から1年程度を必要とする。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注状況からも回復するとは考えにくい。販売量からも各社の在庫調整にはもう少し時間がかかる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・この春開発した新商品に関しては非常に好評で増産を見込んでいるが、一方では従来商品の量的下方修正などもあり、総量的には変わらない状況が続く。
		輸送業（配車担当）	・製造業での在庫調整、生産調整の影響で、ここ2、3か月は物が動かない。
		金融業（融資担当）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げなどで家計の財布は緩むことも考えられるが、雇用状況が良くならないので現状の景況感が続く。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・好転する材料がないなかで地場のスーパーが新店を計画しており、その影響で現在の落ち込みをカバーしきれそうにもない。	
	司法書士	・事業継承者がいないこともあるが、事業を廃業する人が目立ってきている。	
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・プライベートブランド品の台頭が言われ、さらに小売業界からナショナルブランドの定番商材も見積価格の再提出が求められている現況では、納入価格の下振れが顕在化してくるのが目に見えている。こうした環境ではメーカーの一層の収益悪化が危惧される。
		繊維工業（経営者）	・小ロット化に加え、価格に対する値下げの圧力が強くなりつつあり、売上確保が厳しい。緊急経済対策の効果が早く出て欲しい。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・これ以上下がれない状況まで来ている。横ばいで推移するが、いつ上向くか予想ができない状況である。
		金融業（融資担当）	・悪化のスピードはやや弱まった感があるが、上向く兆しについては不透明感が残っている。
		税理士（所長）	・現在の対策では、大企業や輸出企業は恩恵にあずかれるが、一般中小企業にまで恩恵がない。円安方向への為替施策が最優先課題である。
	悪くなる	建設業（経営者）	・景気回復のために公共事業を増やしても、発注量と業者数のアンバランスは容易には解消されず、ダンピングなど過当競争は減らない。そのため、元請業者も下請業者も建設関連の資材・機材業者も全てが利益を出せないという建設業界の構造は変わらず、景気回復にはつながらない。
建設業（総務担当）		・予定していた設備投資計画の見送りや様子見の企業が増えており、また、見積件数の減少でさらに受注環境が厳しくなる。	
通信業（営業担当）		・近年にない最悪の状態となっており、中小事業所向けの設備投資が完全に停止状態となっている。富山県は製造業の比率も高いため、それが顕著に現れている。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・離職者は多くなってきているが、製造業の一部企業で受注が増えてきているとの話もあり、今後求人が増えてくる可能性がある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・依然として派遣需要は少なく、あっても短時間・短期間のものしかなく、引き続き雇用情勢は厳しい。
		職業安定所（職員）	・雇用調整を実施している事業所からヒアリングを行っても、まだ大半の事業所が先行き不透明との回答がみられる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・大手のアルミ関連企業の人員削減の発表もあり、企業の雇用に関しては、ここ当分は削減が現状維持が続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・顧客の話では見通しが暗く、回復までに長くて3年かかるという話を聞いており、明るい兆しが全く見えない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大量解雇の話は出ているが、大きな雇用の話がでてこない。
学校〔大学〕（就職担当）		・学生から就職の内定報告等が聞かれない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	職業安定所（職員）	・急激な景気低迷により、前月に引き続き中小企業等からの雇用調整助成金の相談が激増している。

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・4月前半の感触が良かったため、5月以降にも少し期待が持てる。
		商店街（代表者）	・京都の商店、1,200店舗のクレジットカード売上をみても、底を打った感があるため、先行きはやや良くなる。
		百貨店（企画担当）	・環境自体は今後も厳しいが、定額給付金の給付といった景気対策の効果が出てくる。
		スーパー（店長）	・定額給付金の給付や、プレミアム付き商品券の発行が来月ぐらいから増え、今後2～3か月は消費マインドも若干上向くため、夏物商戦はやや良くなる。
		家電量販店（経営者）	・省エネ家電のエコポイント制度が実施されることで、消費マインドが高まる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・政府の景気対策の効果が出てきたのか、消費者の行動が活発になっている。また、新型インフルエンザにより、うがい薬や手洗い石けん、マスクが動き始めている。特に、マスクについては、4月末には例年と比較して5割アップぐらいの販売量となっている。
		観光型ホテル（経営者）	・景気対策などが消費の増加を促し、経済の良い循環が生まれている。ゴールデンウィーク中は満室状態となるなど、今後は売上が上向いていく。
		都市型ホテル（役員）	・宿泊部門では3か月先の予約状況がやや上向いており、単価をうまく上げることができれば久しぶりに良くなる。宴会部門も予約件数は前年並みを維持しているものの、小規模な宴会が多いため、前年比では2～3%ほど売上が落ち込む。
		通信会社（企画担当）	・今後、景気対策の効果によって消費者動向の改善が進む。
	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の交流戦が行われるほか、家族向けのイベントや人気アイドルグループのコンサートもあるため、来客数が増える。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅購入に対する支援策により、客の購入マインドが向上する。	
	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・過去最大規模の住宅ローン減税がスタートし、特に6月4日から認定が開始される長期優良住宅には大きな優遇があるため、今後は上向き傾向となる。	
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・定額給付金の給付効果にはあまり期待していない。新型インフルエンザの影響もあり、ゴールデンウィーク明けの客足も伸びない。
		一般小売店〔ゴルフ用品〕（店長）	・来客数には回復の兆しが出てきたものの、1品単価が上がらないため、販売数量を増やさねばならない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・客の動向をみても来店頻度が少なくなっているため、しばらくは低調な状態が続く。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・客単価が下がり、売上も伸びていないため、今後も悪い状態が続く。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・客の購買意欲はなかなか戻らないため、今後も厳しい状況が続く。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・タスポを嫌ってコンビニに流れた客が戻ってこない限り、売上が回復することはない。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・カメラ付き携帯電話の機能がこれだけ上がり、保存容量も多くなれば、特にカメラを持つ必要がなくなる。携帯電話があれば十分という人が急速に増えているため、今後も厳しい状況が続く。
百貨店（売場主任）		・現状からこれ以上悪くなることはないが、全体的にどんどん良くなることはないため、当分は現状と変わらない。	
百貨店（売場主任）		・2、3か月先はクリアランスセールが実施されるが、余分な物は買わないという消費トレンドは変わりそうにない。	
百貨店（売場主任）		・定額給付金の給付といった景気対策には若干期待できるものの、効果は一時的なものにとどまる。本格的な回復には、対策を断続的に続ける必要があり、まだまだ相当な時間が掛かる。	
百貨店（企画担当）	・今年は気温が低めに推移するため、初夏物の動きは伸びない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・超優良顧客の間には、美術品といった高額品の引き合いも徐々に出てきている。ただし、大部分の客については衝動買いの動きなどもみられないため、今の状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・客に興味を持たせるような新しい商材にも期待できないため、現状のままで推移する。
		百貨店（外商担当）	・定額給付金の給付による効果については不透明である。
		百貨店（商品担当）	・この3か月は下降が続いたものの、売場への来客数が増えるなど下げ止まり感があることから、今後更に悪化することはない。
		百貨店（店長）	・気温の差が大きく、売上のよし悪しの変化がかなり激しい。この状況はしばらく続く。
		百貨店（売場担当）	・依然としてクーポンの配布や値引き、ポイントアップなどの販促で売上を確保しているのが現状である。また、衣料品のリフォーム売上が大きく伸びていることから、消費者の間で新たな商品を買う意欲は回復しにくい。
		スーパー（経営者）	・高速道路料金引下げの影響で、天気の良い週末は客が15%ほど少なく、売上も15~20%減少しているのが現状であり、この傾向が今後も続く。
		スーパー（経営者）	・雇用不安やデフレ傾向など、悪循環に陥っている感があるため、2~3か月では回復しない。
		スーパー（店長）	・定額給付金の給付による余分な買物には期待できず、高速道路料金引下げも客の減少につながっている。一方、客単価の低下傾向はこれからも続くほか、競合店が減少することはないため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（経理担当）	・新型インフルエンザの発生により、早くも豚肉が敬遠されるといった影響が出ている。今後外出制限のような事態になると、売上への影響も非常に大きくなる。
		スーパー（広報担当）	・定額給付金の給付といった景気対策により、消費喚起につながる可能性は多少あるものの、大きな回復は難しい。
		コンビニ（経営者）	・節約で弁当を持参する人が増え、そう菜や汁物の単品買いが増えているため、売上は横ばい傾向が続く。
		コンビニ（店長）	・プライベートブランドの商品開発が進み、高品質で低価格の商品が増えるため、販売量は増加する。ただし、景気後退で客の財布のひもが固くなり、そのほかの商品は現状維持かマイナスとなるため、全体としては現状維持に落ち着く。
		衣料品専門店（経営者）	・必要な物には支出がきちんと行われており、何も買わずに我慢するといった極端な状況は少なくなっているため、現状のまま推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・政局が不安定な上に、新型インフルエンザの発生などの景気後退要因も残っているため、今後も全体の状況は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・ゴールデンウィーク前の駆け込み需要も期待したほどではなかったため、先行きには不安がある。
		乗用車販売店（営業担当）	・税制の変更や補助金による受注増はいくらか見込めるものの、いずれも効果は短期間にとどまり、根本的な解決にはならない。
		住関連専門店（店長）	・家具は食料品などと違って買換えのサイクルが長く、買い控えの対象にもなりやすい。売上は低迷しており、定額給付金の給付による効果もないため、今後も厳しい状況が続く。
		その他専門店 [医薬品]（店員）	・客の間では低価格志向が若干強く、広告を行った場合も値引き商品には動きがややみられる。さらに、健康志向の相談客も若干増えており、今後もこれらの傾向が続く。
		その他専門店 [スポーツ用品]（経理担当）	・しばらくは市場の停滞が続く。
		一般レストラン（経営者）	・今後、競合他社は更なる値下げを行って来ると予想されるが、その影響がどう出るかは予想が難しい。また、新型インフルエンザの影響はまだ出ていないものの、先行き是不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・地域でプレミアム付き商品券が発行されるため来客数は伸びるが、キャンペーンで単価を下げた場合、売上はさほど変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・まだまだ景気の先行き是不透明であるため、外食に対して客の慎重な状態が続く。
		一般レストラン（スタッフ）	・政府の景気対策が身近に感じられないため、連休後の反動が心配されるほか、新型インフルエンザによる心理的な影響が消費全体に広がる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・季節的には新入社員による需要も見込まれるが、今年は期待外れに終わる。雇用が不安定で先行きも不透明であるため、新入社員の間にも節約志向がみられる。
		観光型ホテル（経営者）	・先の予約状況を見ると、1～2割の減少どころか3～4割減と、今後も悪い状況が続く。低額の宿泊プランを出す予約はある程度入るが、単価の高いプランはあまり売れず、団体客も前年に比べると半減している。
		観光型ホテル（経営者）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げが、良い方向に向かう材料となれば良いが、もう少し様子をみないと分からない。ただし、現状は底であるため、これ以上は悪くならない。
		観光型旅館（経営者）	・所得の減少が進むため、今後も回復はあまり進まない。
		観光型旅館（団体役員）	・主要な集客先である京阪神からの高速道路料金が引下げられるものの、夏シーズンとの端境期であるため、大きな効果はない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先の予約状況を見ると、来客数、単価共に前年と変わらない。一般宴会、婚礼についても、単価の低下が止まらないため、今後も厳しい状況となる。
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門の外国人旅行者の減少に歯止めが掛からず、夏休みまでは非常に厳しい状況が続く。レストラン、宴会も良くなる要素は見当たらない。
		都市型ホテル（営業担当）	・5月の連休は、宿泊が3日と4日のみ高稼働となっているが、それ以降は大変厳しい状況である。当ホテルは個人予約が主体であるが、予約が例年ほどは入ってこない。一般宴会の予約は少しずつ入っているものの、未確定の予約が多く、選挙時期などが決まることで変動してくる。いずれにしても厳しい状況がまだ続く。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行でも安近短の方面は好調であるが、その一方で国内旅行が落ち込み、金額では前年並みを維持するのが精一杯である。新型インフルエンザの影響拡大も懸念材料となっている。
		旅行代理店（広報担当）	・新型インフルエンザによる被害がアメリカやニュージーランドといった多方面へと広がると、海外旅行の需要にも大きな影響が出る。問い合わせ客からもそういった声が聞こえており、終息、拡大のいずれかによって状況は大きく変化する。
		タクシー運転手	・今はどん底の状態、これ以上悪くなる要素はない。
		タクシー運転手	・タクシーに関しては、節約志向もある程度限界にきており、これ以上悪化することはない。
		通信会社（経営者）	・携帯電話の買換えサイクルは、一昨年から昨年にかけて24か月から33か月に伸びている。今年度は更に需要が10%ダウンすると予想されており、低位で推移することになる。
		通信会社（管理担当）	・通信会社による新製品導入は7月ごろとなるため、夏場にはやや回復するが、現状については販売優遇策がない限り変化はない。
		観光名所（経理担当）	・土日や祝日と、平日の来客数の差が以前よりも広がっている。売上も平日の落ち込みが大きくなっており、先行きの不透明感も続いているため、今後も状況は変わらない。
		競輪場（職員）	・上昇するきっかけが見当たらないものの、今より悪くなる要素もない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・5月に無料体験キャンペーンを行うため、その結果によって生徒数に変化が出てくる。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・景気の低迷で消費者は家計を引き締めているため、生命保険への加入を見送るケースが今後も増える。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・シニア向けの販売促進策に期待しているが、効果が判明するのはこれからである。
		住宅販売会社（経営者）	・当社は現金での購入客が多く、住宅ローン減税の恩恵もあまり受けない。今後は株価の動向にも大きく左右されるため、非常に不透明である。
		住宅販売会社（経営者）	・連休が明けても客の動きが続いていれば、一時的には回復傾向にあるといえるが、まだまだ楽観視はできない。
		住宅販売会社（経営者）	・今は新たな需要によって売れているのではなく、今まで条件の合わなかった人による購入にとどまるため、今の動きが一巡すれば元の売れない状態に戻る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・税制や金利面では購入に良い時期であるが、経済状況が悪く客の購入マインドが冷え切っているため、今後も厳しい状況となる。
		住宅販売会社（総務担当）	・長期優良住宅の取得に対する優遇税制に期待しているが、効果はすぐには表れない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・一般の消費は足踏み状態となるものの、不動産取引については引き続き増加する。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・企業を取り巻く環境は引き続き厳しく、消費マインドの上昇にはまだ時間が掛かる。特に、不動産デベロッパーの破たんが続くようであれば、更に悪化が進むことになる。
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕（経営者）	・定額給付金の給付により一時的に華やいだ雰囲気となっているが、それが落ち着き始めると、逆に財布のひもが固く締まる。取りあえず欲しい物は手に入れるが、新たに自分のお金で買うまでには至らない。
		百貨店（売場主任）	・消費者の間では、無駄な買物をしないという意識が根付いているため、今後は更に悪くなる。
		百貨店（サービス担当）	・新型インフルエンザにより、ゴールデンウィークも行楽や買物に出掛けない傾向が強まるほか、風評被害的な食品の買い控えが進む。
		百貨店（婦人服担当）	・新しい売場の認知は徐々に進む一方、冷え込んでいる消費マインドの回復は難しい。
		スーパー（経営者）	・定額給付金の給付は多少の追い風になるものの、日常の買い回り品の購入に使われたとしても、1、2か月分の効果しかない。業界がそろって値下げを進めるなか、売上の伸びる要素が見当たらない。
		スーパー（店長）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げなどにより、消費マインドがやや上向いた感はあるものの、夏季賞与の減額が報じられることで、再び冷や水が浴びせられる。
		スーパー（店長）	・昨年秋以降、県下の雇用は低調であるため、定額給付金の給付による効果も薄い。
		スーパー（店長）	・新型インフルエンザの報道もあり、景気低迷に追い打ちをかけることになる。
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店が相次ぐため、来客数、売上共に前年の水準確保は困難となる。
		スーパー（管理担当）	・客の購買量は緩やかに下降しており、低迷から脱却する材料が見当たらない。
		スーパー（開発担当）	・大手企業の夏の賞与が減るのに伴い、中小企業でもカットされる。賃金が減少するなかで、景気が良くなることはない。
		コンビニ（経営者）	・専門学校の開鎖で近隣の人口が更に減少しており、客単価の上昇も見込めないなど、良くなる要素が見当たらない。
		コンビニ（店長）	・タスポによる売上の押し上げ効果については、開始から1年が経過するため、6月以降は前年比でみた売上が厳しくなる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・今年の夏はスーツの新調を見合わせるという客が多いため、更に悪化が進む。
		家電量販店（管理担当）	・景気対策が十分でないため、雇用不安がかなり大きくなる。周囲からもリストラだけでなく、実際に倒産したという話がよく聞かれる。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への優遇税制で対象車の動きは良いが、そのほかの車種はかなり厳しい状況である。夏の賞与支給額もかなり厳しくなるため、需要を喚起するには至らない。
		乗用車販売店（経営者）	・良くなる要因がなく、まさに100年に一度の不景気といった感がある。最近ではテレビでも先行きに明るさが出てきたと報じられているが、失業者も増えてきているため、そうならなければ大変なことになる。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の販売台数が減少しているほか、車検や一般修理の予約状況も悪いため、先行きの見通しは厳しい。
		高級レストラン（支配人）	・外出を控えるなど、社会全体で新型インフルエンザ対策が進むことにより、消費が落ち込むことになる。
		一般レストラン（スタッフ）	・ゴールデンウィークを控えて若干良くなる要素はあるものの、周囲の景気は悪く、早々と休業に入っている企業もある。今後については、来客数や客単価の回復は見込めず、現状のままで推移していく。
		観光型旅館（経営者）	・今は定額給付金の給付によって下支えされているが、今後はその効果が薄れてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・アジアからの観光客は前年並みに戻っているが、ビジネス客の宿泊は回復の見込みが立っていない。一方、レストランは安定してきたが、宴会の先行予約は悪く、特に企業による定例会合の中止が数件発生している。
		観光名所（経理担当）	・来場者数や売上の減少が大きくなっている。ゴールデンウィークに入っても客の動きは上向かず、特に団体客の減少が著しいため、先行きの見通しは厳しい。
		住宅販売会社（経営者）	・供給過剰の住宅分譲物件で値引き競争が始まっているため、中古市場や不動産流通市場にも影響が出てくる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・日曜、祭日は来街者の減少が特にひどい。定額給付金の給付に期待しているが、一過性の効果にとどまるため、先行きは厳しい。
		商店街（代表者）	・定額給付金が給付されたとしても、商店街の買い回り品にはプラスにならない。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・雇用調整の波が消費の減退につながるため、消費者の財布のひもが更に固くなる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・春の売出しのほか、商店街やショッピングモールでの抽選会など、どの売上も前年比20%以上のダウンとなっているため、先行きの見通しは厳しい。ただし、新緑の見物などの観光客は確実に増えている。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・ゴールデンウィークが明けると夏までは消費の落ち着く時期に入るため、ゴールデンウィーク中の動きが今後の指針となる。一方、新型インフルエンザによる食肉業界への影響も気掛かりである。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・定額給付金の給付効果に期待されるものの、最近では消費者の間で買い控えの傾向が強まっており、先行きの見通しが全く立たない。
		一般小売店〔花〕（店員）	・悪いニュースばかりで客の購買意欲がますます低下し、節約志向も進むため、客単価が落ちる。
		百貨店（マネージャー）	・当社の夏の賞与は前年比で15%減となるほか、他社でも大きな減少となるため、個人消費は悪化傾向が進む。
		コンビニ（マネージャー）	・前年の6月にタスポが導入されて1年が経過するため、売上の前年比は大きく低下するが、効果的な対策もない。
		衣料品専門店（経営者）	・今の状況で多くの商品を抱えるわけにはいかないため、バーゲンでも品ぞろえの不足で苦戦することになる。
		衣料品専門店（販売担当）	・客単価の低下や買い控え傾向など、客の動きが悪いため、先行きの見通しは厳しい。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・現状よりも良くなる要因が見当たらない。景気対策などで国民全体が前向きになれる環境を作らなければ、客は消費に対して積極的になれない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・売上を支えてきた社員が減ったため、在籍者でカバーできるかどうか見通しが立たない。
		旅行代理店（店長）	・海外旅行の際の燃油サーチャージはなくなるが、新型インフルエンザの発症による新たな不安要素が発生している。
		タクシー運転手	・ゴールデンウィーク中は、高速道路料金引下げによりタクシーの乗客数は間違いなく減る。タクシーの乗車回数が増えるのは、暑い夏や激しい雨、寒い冬、また正月などのあいさつ回りで酒を飲む時期のみであるため、これから厳しい時期に入っていく。
		タクシー会社（経営者）	・季節要因や気候要因を除いても、交通費は節約傾向が強まる。特に、徒歩や自転車、電車、バスで代用できるタクシーは、緊急性がない限り利用が控えられる。また、法人に関してはタクシーチケットのほか、接待、社用での利用が節約される雰囲気となっている。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・新型インフルエンザの影響で、感染確認地域のショッピングセンターや集客施設の収益が一段と冷え込む。日本でも感染が確認されれば、相当なダメージを受けることになる。
美容室（経営者）	・持ちこたえられずに閉店する同業者や他業者がこの1か月で増えているため、先行きは厳しい。		
住宅販売会社（経営者）	・不動産市況は最悪であり、チラシや住宅情報誌などの集客率も悪過ぎて話にならない。今後は建売住宅やマンションの値引き合戦も本格化することになる。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・販売数量や受注量が少しずつ増えているため、今後は上向き傾向となる。
		化学工業（管理担当）	・4月以降、自動車関連の出荷は徐々に増える。2～3月が底であり、今後は緩やかな回復に向かう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金属製品製造業（経営者）	・1～3月は在庫調整で受注が激減したが、調整も最終段階に入っており、今後は徐々に需要が出てくる。	
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・省エネ商品のエコポイント制度もあるため、荷動きが増える。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	・受注量は底冷え状態となっているものの、ほかの業界からは明るい話題も聞かれるため、やや上向いてくる。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	・2、3月と引き合いが止まっていた取引先に、少しずつ動きが出てきている。	
		輸送業（営業担当）	・4月中ごろから、工場から出る製品、材料などの荷物が徐々に増えているため、やや良くなる。	
		通信業（管理担当）	・定額給付金の給付による影響で良くなる。	
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・ここ数か月は卸売、小売共に総崩れであったが、小売店では徐々に回復の兆しが出てきている。卸売には相変わらず不調な分野もあるものの、卸売、小売全体では回復に向かう。	
		変わらない	食料品製造業（従業員）	・新型インフルエンザの流行に伴い、豚肉は安全であると報道されているが、消費者がどう判断をするかは未知数である。ただし、商品の売行きに影響が出たとしても、安価な製品を中心に販売量は安定的に推移する。
			食料品製造業（経理担当）	・原材料の価格が徐々に下落しているが、製品価格に反映できるまでには至っておらず、すぐには影響が出にくい。
			家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・受注量が増えていないため、今後も厳しい状況が続く。
			化学工業（経営者）	・売上や受注状況は底を打った感があるものの、得意先に回復の力強さが感じられるほどではない。
			一般機械器具製造業（経営者）	・業況は今後も一定の水準で推移する。
			電気機械器具製造業（経営者）	・实体经济については何とか予測もできるが、金融市場が引き起こした不況であるため、本当に先行きの見通しが立たない。
電気機械器具製造業（営業担当）	・例年はゴールデンウィークに仕事が入ってくるが、今年は入ってこないため、先行きも良くはならない。			
その他製造業〔履物〕（団体役員）	・景気対策による消費の浮揚効果により、やや良くなる。			
建設業（経営者）	・閑散期となるため、受注状況が改善するのはもう少し先になる。			
建設業（経営者）	・消費者は住宅や土地などの高額な買物を控えており、企業にも大規模な設備投資は控えるという待ちの姿勢がみられるため、今後も現状維持となる。			
建設業（営業担当）	・半導体関連でも設備投資を開始し始めている企業がある。引き続き予断を許さない状況であるが、わずかながら明るい兆しが出てきている。			
輸送業（営業所長）	・取引先ではパート社員の出勤日数の削減や時間調整の話も出ているため、急激に仕事量が増えることはない。			
輸送業（総務担当）	・顧客からは明るい情報が入ってこないため、厳しい状況が続く。			
金融業（支店長）	・従来は戸建住宅を中心に販売していた取引先が、現在は中古マンションのリフォーム販売を主に行っている。住宅ローン減税で一般のサラリーマンが買いやすい状況となっているため、今後も好調が続く。			
金融業（営業担当）	・下請の製造業者では厳しい状況が続いているものの、大企業の生産調整が終わるのに伴い、生産調整分の受注は回復する。ただし、受注の落ち込みにより今後2、3か月は資金繰りが厳しくなる。			
新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込チラシの件数も例年よりかなり落ちており、下げ止まりの感もあるが、上向き要素もない。また、経済的理由による購読中止が増えているため、今後も厳しい状況となる。			
広告代理店（営業担当）	・しばらくは広告費の削減が続く。			
その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・取引先からは、設備に関する予算の見積も全然出ないため、受注量の減少が続く。			
やや悪くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・得意先での在庫調整はかなり進んだようであるが、販売量の増加は難しい。		
	出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・景気対策はいずれも短期的なものであり、消費者の財布のひもは緩まないため、企業独自の考えで行動する必要がある。例えば、環境や医療業界では原材料の工夫が求められるため、エコマークの使用や環境対応の用紙を得意先に提案していく必要がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（企画担当）	・プライベートブランド商品といった安価な製品へのニーズが高まるため、高性能、高付加価値品向けの利益率の高い原料については、需要が伸びない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・景気回復の兆しがない限り、住宅ローン減税があっても住宅需要はなかなか回復しない。
		建設業（経営者）	・世界同時不況で設備投資の中止や延期が今後も続くため、仕事量については先行きが不透明である。
		広告代理店（営業担当）	・まだ底が見えず、今後の状況が良くなる気配もない。
		経営コンサルタント	・顧客各社共に、生産、販売、受注量の回復はみられないため、今後も悪化傾向が進む。
		コピーサービス業（従業員）	・景気悪化に伴う企業の経費削減は、印刷関連会社にとって死活問題となる。ただし、定額給付金の給付に関する通帳や身分証明書のコピー需要は、焼け石に水ではあるものの、ある程度は期待できる。
	悪くなる	繊維工業（総務担当）	・受注量の減少に伴い、売上の先行きは前年比15～25%減となる。
		繊維工業（総務担当）	・これまで靴下のような低価格品は購買量がさほど落ち込んでいなかったが、今後は減少が顕著になってくる。
		繊維工業（団体職員）	・受注などを取り巻く環境は悪くなっているため、今後は更に悪化が進む。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・原因は分からないが、昨年12月から4月まで瓶の消費が大きく落ち込んでいるため、先行きの見通しは厳しい。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・例年の傾向では下降する時期となるが、今年は特に先行きの見通しが立たない。
		不動産業（営業担当）	・企業が当地域に進出し、事務所を借りるといったニーズはまだまだ弱い。まずは東京圏が回復しない限り、大阪圏の事務所需要もなかなか回復してこない。
		広告代理店（営業担当）	・ここ半年間は受注量が前年比40～50%で推移しているため、今後の見通しは厳しい。
	雇用 関連	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（社員）
人材派遣会社（支店長）			・少しずつ求人数が増える感はある。3か月後に上向き傾向となっているか是不透明であるが、追加景気対策の影響で10月ごろから少しずつ上向いてくる。
民間職業紹介機関（支社長）			・新規求人数が底を打ち、やや回復がみられる。採用計画を下方修正する企業はほとんどなく、スポット的にはあるが求人を再開する企業も出始めているため、3か月後には最悪期を脱する。
変わらない		人材派遣会社（経営者）	・まだ底の見えない状況が続いているため、回復は難しい。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣という形態が今後見直されていくため、厳しい状況が続く。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・求人数を大きく押し下げているアウトソーシング業界に一応の落ち着きがみられるため、求人数が今よりも落ち込むことはない。
		民間職業紹介機関（職員）	・日雇労働市場に関しては、景気対策に伴う公共工事関連の求人増に期待が掛かるものの、まだ具体的な兆候はない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・周囲に景気回復の兆しは見当たらないため、今後も厳しい状況が続く。
やや悪くなる		職業安定所（職員）	・新規求人数が減少しているほか、これまで更新されていた求人も減少しているため、先行きの見通しは厳しい。
		職業安定所（職員）	・求人数は既に相当少ない水準にあるほか、募集を中断していたサービス業や小売業からの求人が戻り始めているため、これ以上減少することはない。ただし、休業補償を支払って正社員の雇用を何とか維持しているメーカーは、依然として先の見通しが立っていない。今後人員整理を始めることになれば、離職者が更に増加することになる。
悪くなる		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・全く先行きの見通しが立たないが、大阪の地元企業の業績が新聞広告の動きに反映されるため、前年比で7割程度の動きとなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・既に来春の新卒採用の減少が大きく報じられるなど、雇用不安の広がるなかで転職者が増えることはない。太陽光発電関連の生産現場は比較的活気があるものの、雇用の増加は技術系職種の一部に限られる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当) 職業安定所(職員)	・雇用に対する不安や収入の減少で生活の見直しが進むため、消費が更に抑えられる。 ・製造現場の仕事を探す求職者が多い一方、製造業の求人は前年比で5割減となっており、求人求職のミスマッチが生じている。また、これまで増加傾向にあった飲食店関係の求人も2か月連続で大幅減となるなど、先行きの見通しは厳しい。

8. 中国(地域別調査機関:(社)中国地方総合研究センター)

(-:回答が存在しない、:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	その他飲食〔サービス エリア内レストラン〕 (支配人)	・高速道路料金引下げが更に浸透していくことと、週末の来客数の増加に対する当社の対応が更に向上すれば、売上を大きく伸ばすことができる。	
	やや良くなる	一般小売店〔紙類〕 (経営者)	・高速道路料金もだが、航空機の料金も下がっており、人が動きやすくなっているから、観光地である当地もこれから良くなる。	
		百貨店(販売促進担当)	・売上等、店舗によっては多少の改善傾向がみられるので、やや良くなる。しかし休日の高速道路料金引下げの悪影響を中心市街地がもるに受けて、最近の休日の来客数減、売上の落ち込みは激しいものがある。特に、飲食テナントなどは「土日・祝日の家族連れが全く来なくなった、平日の方が売上が良い。」といった悲鳴のような声が上がっている。	
		スーパー(店長)	・購入に至らなくても店舗に足を運ぶ客数は増えており、定額給付金の給付が始まれば、多少は期待は持てる。	
		コンビニ(エリア担当)	・これ以上悪くなりようがないので、良くなる。また高速道路料金引下げが定着してきたので、その分多少でも良くなっていく。	
		家電量販店(店長)	・エコポイントが5月15日購入分から付与されると発表があり、それ以降、地上デジタル放送対応テレビ、エアコン、冷蔵庫の需要が増えると思われる。しかし4月中旬からの買い控え傾向と相殺して、大きな伸長とはならない。	
		乗用車販売店(販売担当)	・新商品投入による好調が、いましばらくは続きそうである。	
		乗用車販売店(営業担当)	・優遇税制の影響が更に出てくる。	
		その他専門店〔布地〕 (経営者)	・これから国の景気対策が、少しずつでも効いてくるのではないかと。	
		一般レストラン(店長)	・定額給付金の影響により若干のインパクトは期待できる。しかし、まだ大手企業にも活気がないため、その後は緩やかに下降していく。	
		通信会社(総務担当)	・政府の景気対策により、一時的な好転は期待できる。	
		美容室(経営者)	・スタッフ総出でキャンペーンや客のメリットになるイベントを打っているので、これから良くなる。	
		住宅販売会社(経理担当)	・政府の経済対策があり、また国内の景気動向が横ばいで推移しているため、消費者の購入マインドは多少改善してきている。ただし、例年に比べるとまだ低調である。	
		変わらない	商店街(代表者)	・定額給付金の給付で一時的な動きはあっても、根底には景気の悪さや、仕事の減少があり、これが払しょくされない限りは今のままである。
			商店街(代表者)	・新年度、新学期時にこれだけ盛り上がりたければ、これから良くなることは考えられない。
一般小売店〔酒店〕 (経営者)	・自動車部品関係会社に勤めている友人の話では2~3月に比べて受注が1.5倍に増加している。また4月末~5月に定額給付金が給付されるので、明るい材料として5~6月は期待できる。			
一般小売店〔酒店〕 (営業)	・底打ち感はあるが、製造業が思わしくないため、この状況が改善されて雇用が安定するまでは良くなる見込みはない。			
百貨店(営業担当)	・国内でも安価でファッション性のある、いわゆるファストファッションの店舗がオープンし、多くの女性などでにぎわっている。この傾向は更に続き、アダルトやミセスにも影響する。			
百貨店(営業担当)	・景気回復の見込みが立たないことと、競合店オープンの影響が今後も継続する。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・これから中元、夏のセールなど大きな商戦を控えているが、買い控え、客単価のダウンなどが顕著な現状から見れば、必要なものしか買わない傾向は継続し、大きな変化は期待できない。
		百貨店（購買担当）	・客単価が上がらず、低単価の物しか動かず、売上も増加しない状況が続く。定額給付金の給付が5月から始まるので、これが当店に回ってきて、更には購買意欲を刺激するよう期待しているが、衣料品に限っては今年もヒット商品になりそうなものはなく、やはり厳しい状況が続く。
		百貨店（販売担当）	・依然として、不要不急な消費を避ける傾向は強く、これからも苦戦は続く。
		スーパー（店長）	・立地している場所が工業地帯で、製造業のコンビナート・工場が多く、自動車等が良くならない限りは変わらない。
		スーパー（経営企画）	・しばらくの間は1品単価と客単価の下落が続く。
		スーパー（販売担当）	・定額給付金の申請が始まったが、口座に振り込まれたのでは給付された実感がなく、どれだけ消費に回るか分からない。
		コンビニ（エリア担当）	・競合も含め異業種も非常に厳しく、出店攻勢を掛ける兆しもないため、現状のままで推移する。また、客の財布のひもは相変わらず固く、大きく変わることはない。
		衣料品専門店（店長）	・少しずつだが、来客数、客単価とも上昇してきている。定額給付金の給付の効果もあり、客は自分のファッションなどに金を使い始めているので、これから期待できる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・今後も気温の上下で多少売上も増減するが、低価格商品中心の流れに変化はない。
		家電量販店（店長）	・来客数、客単価等が下がっており、客の購買意欲も上がっていない。エコポイントなどの一刻も早い実施が必要である。
		乗用車販売店（経営者）	・5～6月と決算発表が続き、この結果では更に銀行からの融資が厳しさを増すと考えられ、中小企業などは戦々恐々としている。高速道路料金引下げはある程度の効果はあるだろうが、全体を押し上げるほどの効果はなく、良くなるのはまだ当分先である。
		乗用車販売店（統括）	・2008年10月からこの状況が続いており、しばらく変わらない。減税、補助金が検討されているが、実施されても効果は少ない。
		自動車備品販売店（経営者）	・夏ころまではETCの特需が見込めるが、消耗品やメンテナンス等の動きは前年を下回って推移しており、回復傾向は見られない。
		その他専門店〔書籍〕（従業員）	・大きく動く有力新刊タイトルが、前年に比べ少ない。
		その他飲食〔ハンパガー〕（経営者）	・高速道路の一部開通により、地元の大規模イベントが続く。高速道路料金引下げもあり、良い傾向が続く。
		都市型ホテル（従業員）	・個人消費は、もともと活発ではなかったこともあり、あまり変わらない。婚礼宴会で、会社の業績の関係で延期になった物件があったが、1件であった。
		都市型ホテル（スタッフ）	・野球場が新しくなったことで、観光を含め集客が多少は増える見込みであるが、立地が離れていることから、極端な好影響はない。
		都市型ホテル（総務担当）	・例年、ゴールデンウィーク後は大きく動かず、また夏はホテルとしてオフシーズンに入る。競合他社との値下げ合戦ともなれば、余計に単価が下がってしまい、予算をクリアさせるためには数を売らねばならないが、現状では期待できない。
		タクシー運転手	・地元では今イベントをやっているが、なかなかタクシーまでは客が流れてこない状態であり、この状態がしばらく続く。
		タクシー運転手	・ゴールデンウィークに開府400年祭のイベントなどが重なるが、例年の動きを見れば、こうした行事は必ずしも我々の売上に寄与しないので大きい期待は持てない。また不況感は相変わらず根強く、夜の動きにも期待が持てない。
		タクシー運転手	・割と高齢の客が多かったが、年金問題や介護制度の不安を訴える声が多く、この様子ではこれからも良くならない。
		通信会社（社員）	・大きな変化はないと思うが、定額給付金等の効果を少し見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・当社サービスに関しては、さほどの変化、消費低下は見られないが、他方周りの業種については、売上減、消費減を聞く。
		テーマパーク（業務担当）	・高速道路料金引下げにより、自家用車利用の来園者が増える。
		テーマパーク（広報担当）	・高速道路料金引下げによる増加傾向はあると思うが、団体客の減少もあり、期待できる状態ではない。
		競艇場（職員）	・レースの規模等から見て、来客数等は今月と同等となる。
		設計事務所（経営者）	・定額給付金が給付されるが、小さな消費に回って、建築工事については期待できない。
		設計事務所（経営者）	・完全に止まってしまっていたものが、半分程度動き始めたという状況で、苦しい状況には変わらない。業界の状況が急激に好転するといった材料は見当たらない。
		住宅販売会社（従業員）	・まだまだ、客は様子見を行っているようなので、販売量の増加には向かわない状況にある。
		住宅販売会社（販売担当）	・展示場、イベントへの来客数が増えないため、しばらくは景気の好転はない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・これからも相変わらず客は買い控えを続けるので、回復はあっても一時的なものとなる。
		商店街（代表者）	・季節的なものがあり、今だけは気持ちがあうきうきしているが、線香花火みたいにすぐ終わる。昼は忙しいが、夕方からは来客数が急激に落ちている。
		百貨店（売場担当）	・政府の景気対策は打たれているものの、新たに新型インフルエンザの問題が急浮上するなど先行きが全く見えず、2～3か月先の状況など全く分からない。
		スーパー（管理担当）	・競合店出店による影響が大きく、来店客数・1人当たりの買上点数の減少がかなりある。価格訴求の販促をするものの一時的な増加にしかならず、継続的なものにならない。
		コンビニ（エリア担当）	・食品はそう変わらないと思うが、来月にはキャンペーンが終了する。また5～10%と値下げをするが、当地にも大型ディスカウントスーパーが進出してきて価格破壊が進むため、非常に厳しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の大幅な落ち込みはないと思われるが、今後も客単価の落ち込みは続く。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・これからも商品単価の低下が続く。
		家電量販店（店長）	・定額給付金にもあまり期待が持てず、今後ますます厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（統括）	・レジャーなど必需品でないものを抑えているなどの話を客からよく聞くようになるなど、客の消費を控える傾向が顕著であり、この状態が続く。
		その他小売（営業担当）	・当店の和菓子は駅売店で売られる比重が高いが、これから高速道路利用が増えて、鉄道利用が減少するため悪くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約・来客数とも今までと変わりなく、特に新しい施設がオープンする状況でもなく、悪くなる傾向はこのまま続く。
		スナック（経営者）	・客の話でこれから良くなるという話は全くなく、これ以上悪くなったらどうしよう、会社が潰れるというような話ばかりである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・個人旅行を対象としている宿泊業なら良いのだが、団体旅行をメインとしている大型ホテルでは、この先、来客数が増える見込みがない。
		観光型ホテル（経理総務担当）	・むこう3か月間の予約状況としては、宿泊部門は良かったり、悪かったりだが、宴会部門は回復の兆しが見えてこない。
		通信会社（総務担当）	・春先の需要拡大は期待外れに終わり、この先も好転材料は見当たらない。客の節約傾向は当分の間続く。
		ゴルフ場（営業担当）	・2～3か月先の予約数が、前年よりずいぶん減少している。
		設計事務所（経営者）	・客の収入の伸びが期待できないので、しばらくは悪くなる方向で推移する。
	悪くなる	商店街（代表者）	・市の中心部への客足が落ちている。さらに海外の状況や、経済状況、新型インフルエンザなど全てが悪くなっており、良くなる状況ではない。
		商店街（代表者）	・客の様子を見ると、自身や日本の将来への不安を強く感じるので、良くはならない。一刻も早く、皆が明るくなるような、ついていくような方向性、ビジョンを示して貰わないと、どうにもならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・問屋の倒産が相次いでおり、商売にならない状況が続く。また、春物の出足が悪いため早々に生産調整に入り、商品確保が非常に難しい。夏物在庫がタイトななか、必ず品切れが起こり、これから春物の残りをズルズルと消化していく、悪い流れになっていく。
		スーパー（店長）	・この地区は自動車製造に携わっている人が多く、自動車業界が良くなれない限り、この悪い状態が続く。
		スーパー（店長）	・市内の製造業は軒並み仕事がないため、中には休日を増やして正社員のアルバイトを認めている。この状況が今後も続くようでは、良くなれない。
		スーパー（店長）	・競争の激化により、体力勝負の感も出て来ており 商品単価は下落傾向となる。単価が下がると、来客数、買上点数が伸びにくい状況で、非常に厳しいこととなる。また地場産業にも、なかなか復調の兆しがない。
		スーパー（総務担当）	・買上になる商品が、一層低単価のものへシフトし、安全、安心、良質の国内産より、品質に多少不安はあっても安い物から先に売れていく状況が続く。
		スーパー（財務担当）	・客の低価格指向がますます強く、1品単価が下っており、景気が良くなる兆しが見えない。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポ効果が一巡する。さらに当店の2号店が500メートル先にオープンし、この影響もあって悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・デフレ傾向は継続し、商品単価の下落は免れない。客1人当たりの買上点数が急激に増加するとも考えられないため、売上は減少する。
		衣料品専門店（経営者）	・プレミアム付き商品券の利用の大半が生活必需品に使われ、ファッションにまで及ばない状態が継続する。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・客の話も聞いても、まだまだ景気が良くなるというような話はなく、顧客の来店頻度も低くなっているため、高価なものが売れない夏場は特に厳しい。
		住関連専門店（広告企画担当）	・同業界で閉店セールが大盛況だった。このまま行くとそういった類のものでしか客が動かなくなる。
		一般レストラン（店長）	・この休日、祝日にかけての来客数減はしばらく続く。昼間に行楽地に出かけて夜は家で食事という行動パターンは定着し、外食離れをひしひしと感じている。
		旅行代理店（営業担当）	・海外で新型インフルエンザがまた発生し、客の海外旅行への意欲が更に失われる。
		美容室（経営者）	・今までなかったほど来客数が減少しており、これからどうなるか予想もつかない。
美容室（経営者）	・業種にもよるが、仕事が回らないので運転資金を借りてるのがねばならないという客が多い。		
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		農林水産業（従業者）	・相変わらず良くないイカが、水温が上がれば期待できる。定置網は網入れが終わったばかりだが、これからしけが少なくなり、これも期待できる。
		食料品製造業（総務担当）	・流通網の確保はこれからも計画的に進める予定で、これからの売上にもある程度好調さを維持できる。
		木材木製品製造業（経理担当）	・住宅取得減税政策などにより、回復の兆しが見れる。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・一過性の恐れもあるが、顧客の在庫調整が進み、受注回復の動きがある。
	電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車関連については、在庫調整が進んでいるとの話がメーカーサイドから伝わってきて、先行き3～6か月の受注が緩やかだが増産傾向となってきている。他部門に応援を出していたが、自動車関連に来月から呼び戻し、かつ増員対応する。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・主要顧客の自動車産業は底が見えてきて、今後やや上がり調子になっていく。	
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・在庫調整が進み、生産が上向く傾向にある。しかし国内の消費が上向かない限り、本当の回復は程遠い。	
	会計事務所（職員）	・一部の製造業では、夏場までが我慢と発注先から言われており、その頃には若干業績が回復する期待を持っている。	
	変わらない	繊維工業（統括担当）	・何となく上向いているような気はするが、実感できるほどのものではない。少なくとも、ここ2～3か月では大きく上向くことはない。
化学工業（総務担当）		・先行きの見通しが立てられない。	
化学工業（総務担当）		・消費の冷え込み対策として、定額給付金の効果を期待する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・小ロットの注文が入っているが、生産水準が向上して正規操業が維持できるまでには届かない。
		鉄鋼業（総務担当）	・今後、各需要分野で在庫調整は進展するとみられるが、需要の大幅な回復は期待できない。厳しい需要環境が継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・政府の景気対策による好転を期待するものの、今年度はマイナス3%成長という厳しい状況の中で、先行きは好転しない。
		金属製品製造業（総務担当）	・中国・インドなどのアジア市場の回復に期待しているが、得意先の生産説明会で、今年中は市況は回復しないとの見通しを示され、社内でも現在の厳しい状況が続くとみている。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・受注が回復する兆しが見られない。
		建設業（経営者）	・建設も不動産も悪いままで推移する。しかし、少なくともこれ以上は悪くなりそうにない。
		建設業（経営者）	・経済対策や金融の安定化が順調に進化したとしても、V字回復は期待薄の状況であり、今後1年程度は前年度より悪い状態が続く。
		輸送業（統括）	・現状の悪さは当分続く。
		通信業（営業企画担当）	・業種に関わらず、取引先全般について設備投資を控えている状況である。コスト削減が主流となっており、2～3か月先で上向き状況ではない。定額給付金の給付も、消費マインドを維持させるにとどまっている。
		通信業（部門長）	・自動車関連の動きの悪さは相変わらず続くと考えるが、政府の景気対策で一般消費がらみの業界の通信設備への投資に期待する。
		金融業（業界情報担当）	・依然として低水準ではあるが、ドイツ・中国など一部では回復が見られ、生産は緩やかに回復する。
		コピーサービス業（管理担当）	・客が外部に仕事を outsouring する気配が相変わらずない。
		やや悪くなる	
一般機械器具製造業（経営企画担当）	・海外市場の冷え込みは今後も当面続く見通しであり、回復の兆しは全く見られない。		
金融業（営業担当）	・どの業種もプラス材料を全く見出せないまま推移する。ただしカラオケや社交ダンス関係の衣装や小物を生産・販売している企業が、増産のために大規模なスペースを賃借するなど、コアな客を確保している企業は元気がある。		
悪くなる		その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	・当社の商品の場合多くはデパートでの販売が主力であるが、これらの販売が大幅にダウンしているとの情報もあり、今後の落ち込みが更に続くようだと生産水準に大きな変化がでる。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・景気は相変わらず悪いまま横ばいで推移するが、少しずつ企業が採用意欲を高め始めている。さらに定額給付金の本格的な給付開始、高速道路料金引下げと大型連休、夏季賞与支給時期に合わせた景気への刺激策と、施策とイベントが重なり、景気が底上げされる。
	変わらない	人材派遣会社（担当者）	・ほぼ全業種で、先月と比べて変わらないという発言が多い。
		人材派遣会社（支店長）	・先々2～3か月の契約に結び付きそうな、求人についての情報量が減少している。
		人材派遣会社（支社長）	・製造業の生産調整が進み、底打ちした感がある。ただし、すぐに景気回復基調にはつながらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・民間からの需要はまだまだ低調であり、先行きの不透明さがある。契約終了数は下げ止まった感があるが、需要に関してはまだ数か月は横ばい状態が続く。
		職業安定所（職員）	・事業所担当者からは景気の底が見えない、先が見えないという声を聞くため、現状と変わらず悪い状況が続く。
	職業安定所（雇用開発担当）	・求人申込や助成金の相談に訪れる企業に話を聞くと、「先行き不透明」との回答が多いが、現在の状況が相当に悪いため、これ以上の悪化を予想する企業は少ない。	
やや悪くなる		求人情報誌製作会社（担当者）	・必要な採用数が読めない状況の企業が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・住宅・自動車など、支援策のおかげで良くなるかと思ったところに新型インフルエンザが発生した。連休前であり、旅行関係などへの影響が大きい。
		職業安定所(職員)	・休業や教育・訓練に関わる助成金についての相談や申請件数の増加が衰えず、今後もこの状態が相当期間続く。
	悪くなる	職業安定所(職員)	・今の状況を採用のチャンスと捉える企業はほとんどない。求人面では、世界的な景気悪化に起因する収益への影響が避けられない中、現状維持が精一杯で、欠員補充すらできない企業が大半である。
		民間職業紹介機関(職員)	・求職について問い合わせの中に、「給与を日払いで支給する会社はないか」や、「住み込みで働ける会社はないか」と言う、求職者の困きゆうをうかがわせるものが多くなっている。さらに家計の足しにしようとしているのか、「ここしばらくは子育てで働いていないのだが、子育てと両立できるパートなどを紹介してくれないか」等の質問も多くなっている。

9. 四国(地域別調査機関:四国経済連合会)

(- :回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街(代表者)	・高速道路料金引下げの影響で、土日を中心にかなりの観光客が入ってくることが予想される。また、定額給付金の給付が始まることで、消費者マインドが緩んでくると考えられる。
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・高速道路料金引下げの影響で県外からの車が増えている。これから夏に向けて、おいしい魚と酒を目当てに、県・市外からの客が増えることを期待している。
		百貨店(売場担当)	・政府の景気対策で、少々活気が出ると思われる。
		コンビニ(総務)	・高速道路料金引下げや、定額給付金の給付開始など、景気刺激対策が始まり、来店数増加につながると考えられる。
		乗用車販売店(従業員)	・高速道路料金引下げによって、休日に県外などへ移動する人が多くなり、消費の拡大につながる。
		乗用車販売店(従業員)	・自動車の販売に減税が影響する。エコカーについては、4月以降の販売量が前年を超える予定である。また、5月発売のハイブリッド車に、大きな期待を寄せている。
		乗用車販売店(営業担当)	・自動車関連税制改正(減税)に新車購入補助金対策が決定すれば、販売は上向くはずである。
		観光名所(職員)	・高速道路料金引下げで県外の観光客が増えたが、新型インフルエンザの影響が少し不安である。
		競艇場(職員)	・ナイター営業という物珍しさや、これからの気候の良さもあって、当面は人も売上も伸びると思う。
		設計事務所(所長)	・景気対策に期待して、車の買換えが増えているので、短期的には良くなる。
	変わらない	商店街(代表者)	・高速道路料金引下げによる流入人口増加の好影響が、一過性のものに終わらないよう努力と工夫が必要である。
		一般小売店〔乾物〕 (店員)	・景気対策で、とりあえず景気は上向くと思う。しかし、金融問題、新型インフルエンザなどマイナスの面も懸念される。
		百貨店(営業担当)	・高速道路料金引下げもあり、これ以上の悪化はないと考える。
		スーパー(店長)	・高速道路料金引下げの効果を期待したが、身の回り・生活用品を主としたスーパーマーケット業界には影響がなく、一般の生活者は金を使わない。
		スーパー(企画担当)	・一部の衣料専門店の前年比売上が100%を超えており、衣料品の悪さも目立たなくなってきた。しかし、大型店舗の直営売場・テナントは、まだまだ在庫を抱えており、予断を許さない状況である。
		衣料品専門店(経営者)	・消費者は、様子うかがいをしている。
	家電量販店(店長)	・昨年末から今月にかけての来店数・客単価の対前年比の推移は、変わっていない。今後もあまり変動はないと思われる。	
	家電量販店(営業担当)	・季節商品が良くなれば、他の商品が抑えられ、全体的な売上増加につながらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・ 昨年の同じ時期からずっと今の状態が続いており、急激に景気が変わるとは考えられない。
		乗用車販売店（役員）	・ 政府の景気浮揚対策が出て来ているので、車の需要については、現在と変わらず推移する。
		観光型旅館（経営者）	・ ある程度、景気の底を打ちつつある。四国は、高速道路料金引下げや、しまなみ海道開通10周年のイベント、NHKドラマなど有利な条件があり、急には良くならないが、今の状態から落ちることはない。年末ごろから上昇してくるかと思うが、3か月先はそう変わらない。
		タクシー運転手	・ ETC利用者は増加しているが、タクシー利用の増加は見込みが薄い。定額給付金の給付に期待する。
		タクシー運転手	・ 通常、2～3か月先（6～7月）は梅雨入り等で、人の動きがあるが、現在の状況からすれば、人の出が悪く、すぐに回復する見込みはない。
		通信会社（企画）	・ CATVの利用料は継続するため、ボーナスの影響を受けにくく、2～3か月先も大きな変化はない。
		通信会社（管理担当）	・ 通信業界は、定額給付金の給付の影響も小さく、新規市場の伸び悩み等で回復の要素は少ないと想定される。
		通信会社（支店長）	・ 年間を通して、企業のサービスポイントである新生活関連商品の販売不振が影響している。客の動向は、心理状態によってイベントへの参加が想定されるため、今の状況では、ほとんど変化はないと思われる。
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・ 前年同月との差が月ごとに大きくなっている。婦人・紳士服ともにファッション感性の高い商品および宝飾品、美術品など高額商品の動きが鈍くなっている。法人需要についても厳しい状況が継続している。
		衣料品専門店（経営者）	・ 5月は、ゴールデンウィークもあり、昨年までは大きな数字を出していたが、今回は、どのくらいに着地するか、非常に心配である。5月は、厳しいのではないかと懸念している。
		衣料品専門店（経営者）	・ 昨年、2万円台の商品を購入していた客も、今年は1万円台に抑えるなど、1品単価が下がり続けている。メーカーからの商品投入も低価格を意識した商品が主流で、客単価の低下は当分続くと思われる。
		都市型ホテル（経営者）	・ 先行きの予約状況が良くない。ただし、高速道路料金引下げ効果が若干あり、土曜日の予約なしの駆け込みの宿泊は増えた。しかし、全体的には宿泊・レストランとも減少しており、今後更に悪くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・ 予約の入り弱くなっている。大きな予約も減ってきている状況で、全体的に不景気の影響が出始めている。
		悪くなる	商店街（代表者）
一般小売店〔酒〕（販売担当）	・ バイキングパワー、資金力（資本力）勝負の強者による乱売合戦は、一層エスカレートすると考えている。		
百貨店（販売促進担当）	・ 消費スタイルの変化により、金の使い道が変わってきていると感じる。		
スーパー（店長）	・ これまで好調であった惣菜も含めて売上が伸びなくなっている。また、特売商品だけを購入する顧客が増えており、節約志向を感じる。		
スーパー（店長）	・ 大手スーパーが食品の値下げを行っており、この結果デフレスパイラルとなって、更に景気は悪くなる。		
スーパー（財務担当）	・ 今後、更に需要の減退が予想され、価格の低下が進む。		
衣料品専門店（経営者）	・ 給与減少など消費マインドが落ち込むようなことが多いため、まだまだ景気回復は難しい。		
住関連専門店（経営者）	・ 所得などが、なかなか伸びないので消費も悪くなる。		
その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・ このまま不景気感が続けば、ますます支出を減らさざるを得ない状況になる。外食から中食へ、そして内食への回帰が、更に加速する。		
美容室（経営者）	・ 高速道路料金引下げや定額給付金の給付等も一時的なものであり、持続性のある景気回復には、まだまだ遠い感じがする。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	不動産業（経営者）	・ 今月に入って、個人客では、減税措置による住宅関係、事業所に関しては、外食産業やディスカウントショップの出店の引き合いが増えてきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	公認会計士	・経営者らと話をしたところ、高速道路料金引下げとNHKドラマの効果で県外からの車が増えており、将来の景気回復に期待を持っている様子であった。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・夏場に向かっているので、小売では雑貨の売上があまり伸びないと予想され、現在の状況が続く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・実体経済以上にユーザーのマインドが冷え込んでいる。様子見の状態が続いており、これがいつまで続くのか全く予想がつかない状況にある。
		建設業（総務担当）	・一部に、市町村の公共工事が発注されるとの情報があるが、少ない工事に多数の業者が群がり、競争入札となって、収益面では期待できない。
		輸送業（経営者）	・景気が良くなる見込みが薄い。定額給付金の給付も期待できそうにない。
		輸送業（社員）	・主要取引企業の動向では、減産体制の継続や設備投資の取り止めが継続されており、出荷数量の回復は現時点では望めない。
		輸送業（支店長）	・これといった案件も気配もなく、例年よりやや減少気味で推移していく。
		通信業（営業担当）	・法人客から「最悪期は乗り越えられた」との話を聞くことが多くなってきたが、一方では、「昨年10月から3月までの影響がどこまで今後に出るか不透明で、まだまだ安心はできない」との声も、多くのマネージャー層から聞く。
		通信業（部長）	・5月下旬から新商品の市場投入が予定されているが、依然として低価格商品への志向が強い。「新商品＝高価格商品」は一部消費者のみのし好的購買となり、景気浮揚にまで至らないと考える。
		広告代理店（経営者）	・売上不振等により多くの得意先で、広告費削減が著しい。従来、地方での広告費が見込まれた乗用車販売関連も厳しい。ただし、ハイブリッド等のエコカーの新車導入に減税が適用されるため、多少改善の期待もある。
やや悪くなる	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・小売段階での売上が芳しくない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・大手の電子・自動車関係とも一部取引しているが、設備投資は全くゼロである。しかし、環境関連がやや好調であり、トータルで考えるとやや悪くなる。
		金融業（融資担当）	・客との話では、景気が回復基調というより、悪くなっているという感じを受ける。
悪くなる	悪くなる	鉄鋼業（総務・人事統括）	・取引先からの支払条件変更要請など、資金繰り面の厳しさを訴えるケースが出てきた。休業に入る企業が多くなった。新型インフルエンザの流行による経済活動の停滞なども懸念される。国の助成金給付はあるものの、企業・従業員とも減収となることに変わりはない。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・自動車関連下請けで雇用調整が終了し、新規雇用の話があった。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・これから本格的に雇用を控える業界（製造業中心に）もあるので、厳しいまま推移しそうな状況である。求人を実施する企業にとっては、特に即戦力採用市場で応募が昨年同月の約2倍と追い風となっている。元気な企業も内在しているので、市場開拓に努めたい。
		職業安定所（職員）	・大型の新規事業の立ち上げなど朗報はなく、雇用調整助成金申請が増加する一方である。資金繰りを緊急保証制度でカバーできていないところも多くあるようで、予断を許さない状況が続いている。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・先行きが不透明なため、人材採用を見送る企業が多い。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ハローワークが人でごったがえしている状況では、将来への安心感もなく生活防衛に走るしかなく、消費は冷えたままである。定額給付金の給付を見込んだセールも展開されているが、一過性のものである。
		職業安定所（職員）	・周辺企業に問い合わせると、生産は悪い状況であるということである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（所長）	・製造業の落ち込みが大きく、今年度いっぱいはいは回復しないであろうという経営者の声をよく聞く。また、他の業種についても、先行きを楽観視している経営者はほとんどいない状態で、採用意欲は減退している。

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・定額給付金の給付の影響で、客の動きが少し良くなり、消費拡大のきっかけになる。
		商店街（代表者）	・市が発行するプレミアム付き商品券の販売が5、6月と続き、景気は少し好転する。
		商店街（代表者）	・定額給付金の給付、高速道路料金引下げ等、明るい話題があり、加えてプレミアム付き商品券の販売で活況を呈する。地元百貨店も催事を計画しており、来街者数の増加が見込める。
		コンビニ（エリア担当）	・前年、高騰していた商品の原材料価格も下がっており、利益率が例年並みに戻っている。少しずつではあるが景気は改善する。
		家電量販店（店員）	・定額給付金の給付や商工会議所よりプレミアム付き商品券が発売され、上限も1人10万円までと大きく、非常に期待できる。
		家電量販店（総務担当）	・消費を刺激する景気対策が徐々に消費マインドを上げる。
		乗用車販売店（管理担当）	・環境対応車への優遇税制や景気対策等、補正予算が成立したら今よりも明るくなる。高速道路料金引下げによるETC車載器の需要が追い風となり、自動車の買換えが増える。
		一般レストラン（経営者）	・安い費用で近くの観光地に短い日程で出かける傾向が強まっているため、若干良くなる。ただ、企画、内容により、客が減少することもあるため、しっかりとした企画、内容で売上を確保しなければならない。
	観光型ホテル（営業担当）	・前年に比べ、修学旅行を中心に宿泊が増加しており、婚礼の利用者も増加しているため、やや良くなる。予約状況をみると、ゴールデンウィークは例年と変わらない状況にある。	
	変わらない	商店街（代表者）	・景気対策により大きな好転はないが、悪くはならない。
		商店街（代表者）	・政府の景気対策等でも簡単に景気は良くなる。今の悪い状況が続く。
		商店街（代表者）	・商店街の周りにはスーパーやコンビニエンスストア、デパート等が多くあり、競争が激化している。周辺の競合店には商店街にはない駐車場があり、営業時間を延長する店舗もあり、商店街はますます厳しくなる。
		商店街（代表者）	・高速道路料金引下げ等により県外客が増え、来客数は増えるが、売上の増加にはつながらない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・2～3か月後はうなぎの季節であるが、今年は丑の日が日曜日ということもあり、期待はできない。今は魚価も安く、売れさえすれば利益も出るが、とにかく売れないため、非常に厳しい。
		百貨店（売場主任）	・新型インフルエンザの世界的な流行等が伝えられ、明るいニュースがなく、このまま悪い状況が続く。
百貨店（総務担当）		・定額給付金等の景気対策に期待感はあるものの、一過性のものにすぎない。近隣大企業の一時帰休も継続しており、消費マインドの回復は期待できない。	
百貨店（営業担当）		・来店客の購入率が縮小しており、バーゲン商品のシェアが上がり、厳しい状況が続く。食品の動きは例年通りとなっており、物産催事、全店催事への来場者数は確保しているが、客の慎重な購買姿勢は継続している。	
百貨店（営業担当）	・定額給付金等の消費押し上げ要因も、夏の賞与の減額や新型インフルエンザ等のマイナス要因に打ち消され、専門品、買回り品を中心に不振が続く。		
百貨店（販売促進担当）	・現状でかなり底に近い状態であり、今後、特に悪くも良くもならない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・定額給付金の給付は一過性のもので、3か月後に購買力が高まることは考えにくい。客の低額志向が続いており、売上高の押し下げや来客数の減少につながっている。客は生活防衛型消費傾向にあり、百貨店での衝動買いはほとんどみられない。慎重に購入する消費動向がみられ、売上が急に伸びることは考えにくい。
		百貨店（業務担当）	・客が消費を抑える傾向が続いている。夏の賞与が出ないため、購入を断念する客も増えており、厳しい状況が続く。
		百貨店（営業企画担当）	・エコや省エネ商品等への政府支援策はあるものの、現実的な景気回復の兆しはなく、当面は、現在の状況が続く。
		スーパー（店長）	・客の先行きへの不安感はこの数か月では改善できず、今後厳しい状況はしばらく続く。
		スーパー（店長）	・約3年前から高齢化や若年者人口の減少等により絶対消費量が落ちており、消費拡大が望めない環境であるが、当社は価格より、購買価値という観点で商品化を行っており、急激な実績悪化はない。
		スーパー（店長）	・競合店の出店もあり、販売点数が伸び悩んでおり、今後も変わらない。
		スーパー（店長）	・新型インフルエンザの影響で精肉の売上は厳しいが、青果は相場の関係で堅調な動きである。定額給付金の給付の影響は今のところみられないが、衣料品等の販売促進がポイントとなる。
		スーパー（店長）	・IT関連企業や自動車関連企業、製鉄業は在庫調整が終わりつつあるにもかかわらず、製鉄業の稼働率が悪く、関連企業に元気が無いため、消費拡大は依然望めない。
		スーパー（総務担当）	・今後も食料品を中心とした低価格商品の打ち出しは変わらず、定額給付金の給付も始まったが、大型商品、大型家電等の動きも思わしくない。
		スーパー（企画担当）	・急な景気回復が望めないことやドラッグストア的な販売強化策も難しいことから、今後の売上動向はほぼ平行線を辿る。
		スーパー（経理担当）	・政府の景気政策の効果もあまりなく、雇用不安等先行き不透明感がまん延しており、売上や来客数は低水準での横ばいで推移する。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・客や周囲に様子をみると、依然収入がない人が多く、2、3か月では大きな改善は期待できない。
		衣料品専門店（経営者）	・悪くなる一方であったが、ここきてようやく良くなる兆しがみられる。しかし前年に比べると内容は悪く、依然先は見えない。
		衣料品専門店（店員）	・定額給付金の給付やエコポイント等の景気対策はあるが、婦人服には影響しにくく、今後も婦人服の売上は上がらない。
		衣料品専門店（店員）	・百貨店等でも従来では考えられない価格帯で販売しており、安価な物に客が流れている。通常価格では売れないため、厳しい状況である。
		家電量販店（店員）	・向かいにあった大型店が撤退し、それに伴い商店街の通行量や来客数が減っており、非常に厳しい状況である。省エネ商品に付与されるエコポイント制度開始前でテレビ等の買い控えがある。
		乗用車販売店（従業員）	・車の景気対策が実施されるが、高い買い物であり、客の反応は薄い。
		乗用車販売店（販売担当）	・景気の浮揚策として自動車の減税等が行われるが、客の購買に対する慎重な姿勢は変わらない。
		住関連専門店（経営者）	・定額給付金の給付が始まり、当地でも6月からプレミアム付き商品券の発売が決まったが、家具の購入にはつながりにくい。連休明けから夏場に向けては家具の購入に期待はできない。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	・来店する客の動き、客単価、来客数は前年より少し良くなっているものの、今後の見通しとしては購買量は差し控えられ、客単価は若干減少する。
		その他専門店【書籍】（代表）	・夏に向けて客の行動が活発になるが、企業決算があまり良くないため、期待できない。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げ等により、次の休みには家族と旅行計画を立てているという客の話が聞かれる。消費マインドが回復しつつあるが、依然客の購買に対する慎重な姿勢がみられるため、本格的な消費拡大には時間がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（支配人）	・予約数が前年より少し減っている。景気対策も行われるため、これから少しずつ予約も増えてくるが、良くも悪くもならない。
		スナック（経営者）	・客の財布のひもが固い状況が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・一部景気が上向くという話を聞くが、地方都市への波及は遅れる。
		都市型ホテル（副支配人）	・例年通り団体の予約は入っているが、出張客が減っている。
		旅行代理店（従業員）	・ビジネス出張も法人団体も依然、低迷が続く。個人旅行も単価を抑える傾向にあり、日帰り旅行が増えている。海外旅行では新型インフルエンザの影響もあり、今後は予断を許さない状況である。
		旅行代理店（業務担当）	・法人需要がすぐに回復はせず、厳しい状況が続く。それ以外も回復要因が見当たらない。
		通信会社（業務担当）	・5月は母の日セール等で需要の喚起を図ることが出来るが、来客数は大幅に伸びないと予想され、法人大口も見込みが少ない。新機種等が5月末に発表されても、市場は活性化せず、厳しい販売状況になる。
		テーマパーク（職員）	・経済状況は悪いが、高速道路料金引下げや定額給付金の給付もあり、総じて変わらないと回答した。夏に向けて新プランを準備しており、上記の景気対策が追い風になれば良くなる。
		ゴルフ場（支配人）	・近隣企業の動きは相変わらず冷え込んでいるが、客の動きや会話の様子からは大きな変化はみられない。
	ゴルフ場（従業員）	・ゴールデンウィークに入るが、単価を下げての営業を続けており、厳しい状況が続く。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・マスコミ等による不景気報道の影響で客は買い控え傾向を強めている。値下げをしないと売れず、物販業は利益はとれない状況が続く。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新茶を入荷し販売しているが、例年のような積極的に購入する客は少ない。定額給付金の給付等の期待も一時はあったが、別の物に流れるか貯蓄に回るため、今後も厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・政府の経済対策等はあるが、景気を押し上げることにはならない。マインド面での下支えにはなるものの、消費者は不景気に慣れ、生活防衛型消費の傾向が強まり、売上は更に厳しさが増す。
		百貨店（企画）	・年1回開催の人気物産催事までも通常の購買行動と同じ様な動きになっている。新型インフルエンザ等、気持ちが前向きになる報道は皆無であり、購買意欲を喚起するきっかけがない。
		スーパー（店長）	・定額給付金の給付が始まったが、消費性向が少しずつ上がっている。しかし今後の夏商戦、ボーナス商戦をみると、商品単価が更に低く抑えられ厳しい状況に変わりない。
		スーパー（総務担当）	・定額給付金の給付も全部は消費に回らず、今後消費マインドはむしろ低下するため、厳しい。
コンビニ（販売促進担当）		・小麦粉の価格が下がっており、食パン等の利益率を若干上げることが出来る。しかし、黒字になるにはまだ時間を要する。	
その他専門店〔書籍〕（店長）	・目先だけの景気対策では国民の不安は解消しない。環境対応車の減税や省エネ家電のエコポイント制度も一部の消費者への効果しか期待はできず、今後も厳しい消費行動が続く。		
高級レストラン（専務）	・5月まではこのまま少し悪いくらいで推移するが、6月以降は人の流れが激減する。タクシーや百貨店の状況も悪いと聞く。		
観光型ホテル（スタッフ）	・新しい施設が7月にオープンし、婚礼の予約が前年と比べ減少している。		
都市型ホテル（スタッフ）	・円高による外国人観光客の減少、製造業各社の業績低迷による出張の減少等良い要素が見当たらない。高速道路料金引下げによる日帰り客の増加が懸念される。		
タクシー運転手	・暑くなると人の動きが悪い上に、高速道路料金引下げの影響で自家用が多くなるため、タクシー利用が少なくなる。		
タクシー運転手	・客の乗車率が大変悪く、売上が伸びないので会社自体が前を向いて進まない状況になっている。		
競輪場（職員）	・発売額、入場者ともに前年を大幅に下回っており、この傾向は今後も続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	美容室（店長）	・今後も低価格のサービスが主流になっていくため、厳しい。
		百貨店（営業担当）	・定額給付金の給付及びプレミアム付き商品券の販売は始まったが、売上増加、単価上昇にはつなげていない。今後も悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・中心街は空き店舗が急増しており、百貨店1店舗だけでは耐えきれない状況である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・タスポ効果が一巡し、たばこの売上にあまり期待ができなくなっている。このままでは客単価も下がる一方である。集客する要素もなく、このまましばらく低迷する。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・九州では鹿児島、宮崎を除く全エリアでタスポ導入後、1年が経過する。先行エリアの状況をかんがみると、5～7月にかけて販売数量、単価ともに非常に落ち込むため、これからコンビニエンスストアは悪い方向に向かう。
		衣料品専門店（店長）	・定額給付金の給付がプレミアム付き商品券の購入につながるか、購買意欲の上昇につながるか不明である。
		衣料品専門店（店長）	・低価格消費の動きが好調である。大型店にはかなわないので、1点物の商品をそろえているが、今後も厳しい状況となる。
		乗用車販売店（従業員）	・部品の販売量が伸び悩んでおり、厳しい状況が続く。
		高級レストラン（経営者）	・予約がほとんどなく、厳しい状況である。5月は株主総会が多いが、その後の食事も昼食のみになり、単価が低くなっている。当店のような社用の高級割烹店は大打撃を受けている。
		タクシー運転手	・新型インフルエンザの影響により、外出客が減少し、タクシーへの乗客もかなり減少する。
		通信会社（総務担当）	・視聴者の加入実績は前年比マイナスとなっており、今後の経済情勢の悪化が続けば、期初より事業計画の未達成となる。しかし、未達成は許されず、何らかの努力と工夫が必要である。
設計事務所（所長）	・仕事は3か月から半年後に結果が出るため、今、手持ちの資料がほとんどなく、先々かなり悪くなる。		
企業動向関連	良くなる やや良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・エネルギー関連の引き合いが多く、5月には受注の見込みである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の様子から半導体関連やコネクタ関連、液晶装置部品関連は現在、底をついている状況である。在庫調整はある程度終わり、先行きは明るい兆しである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・受注量が増えるため、やや良くなる。
		建設業（総務担当）	・公共工事の発注が出る時期となり、どん底からは脱出する。
		通信業（経理担当）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げ等、これから迎える大型連休への波及効果が期待できる。今後発表される各社の決算状況に影響されないよう、企業は従業員への待遇を改善し、消費を拡大させる必要がある。
		経営コンサルタント	・為替の落ち着き等により、今後数か月は少しずつ上向いてくる。
		変わらない	農林水産業（経営者）
	農林水産業（従業者）		・国内の在庫が結構残っており、価格的にスーパー等で低価格路線が定着しているため厳しい状況である。
	家具製造業（従業員）		・住宅ローン減税や高速道路料金引下げ、定額給付金の給付等景気対策の効果は限定的となり、景気全体を好転させるほどの効果は今のところなく、受注状況も良くはない。
	鉄鋼業（経営者）		・販売価格に底値感が出たことにより、受注量に回復の兆しがあるものの、建設需要回復のけん引役である新規設備投資の需要はほとんどない。これらの設備投資物件に付随する周辺インフラの建設需要も減少しており、景気対策の効果が出るまで、需要の低迷は続く。
	金属製品製造業（企画担当）	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げ等により、ゴールデンウィークの個人消費が上向くという錯覚に陥りがちであるが、依然、上場企業による人員整理が行われており、決して楽観はできない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・資金の確保、雇用を守るために、相当の赤字が出ているおり、厳しい状況が続く。
		金融業	・取引先の受注状況を見ると、製造業は下期からの回復となる。それまで体力の無い中小企業はセーフティネットを利用して乗り切るしかない。
		金融業（調査担当）	・経済環境は大きな変化はない。しかし、5月以降発表される企業決算やボーナス支給水準が悪いことが予想されるため、消費マインドが落ち込むことが懸念され、企業の受注環境が悪化する。
		金融業（営業担当）	・設備投資を抑え、固定費を削減する傾向は中小企業に依然続いており、景気は低迷した状況が続く。
		金融業（得意先担当）	・建設業者が多い地区であり、受注状況が厳しく、取引先の経営状況は予断を許さない状況である。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上が低調に推移しており、厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント	・利益率の低下、客の買い控えにより、取引先の売上の減少が進んでいる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先の経営環境が良くなっていく気配がなく、自社への発注も変化がない。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・納入先の客単価が10%近く低下しており、この傾向は当分変わらない。一方、来客数が増加する要因はなく、昨年と比較して相当程度減少することが見込まれているおり、受注状況は悪くなる。
		食料品製造業（経営者）	・販売量が大幅に増える見込みが少なく、製造量が少なくなる。
		建設業（従業員）	・公共工事の前倒しにより、見積件数が増えている。しかし競合相手が多数あり、落札には至らない。また、民間は経済不況により設備投資に前向きなオーナーは少なく、経済状況はこのままかやや悪くなる。
		通信業（職員）	・交渉できる案件が減少傾向にあり、受注量も減少する見込みである。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・取引先の実態を見ても、倒産や延滞、条件変更等が増加している。その結果貸倒引当金の積み増し等、収益圧迫要因が拡大しているおり、先行きも厳しい。
		悪くなる	繊維工業（営業担当）
窯業・土石製品製造業（経営者）	・現在受注が減少し低迷しているため、夏にむけて更に厳しくなる。		
一般機械器具製造業（経営者）	・受注の具体的な話も全くなく、底打ち感が一向に感じられない。		
広告代理店（従業員）	・毎月の新聞折込広告枚数に改善の兆しが見えない。顧客からの受注状況も減少の一途であり、政府の景気対策が実効性を持つまでにはまだしばらく時間がかかる。		
その他サービス業	・市町村の発注する委託業務について、低価格での請負が進行すると、次回はそれを下回る価格でないと受注できないようになり、低価格競争が更に激しくなる。会社によっては、撤退せざるを得なくなる恐れがある。		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・短期ではあるが、注文が少しずつ増えている。企業も今までは違う対応を強いられており、売上につながる活動を考えている。そのなかで、人材の利用も多々あるため、求人数も多くなる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・今期4月以降の予算作成でどの企業も人員をぎりぎりまで縮小はしたが、実際に現場が回らない現状を踏まえ、増員に踏み切っている企業が出ている。
		新聞社〔求人広告〕	・景気が回復基調にあっても、すぐに求人数が増えるわけではないので、現状では変わらないが、やや悪くなる方向である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の決算発表期に入り、厳しい状況がさらに続くが、国の経済対策のほか、企業も新しい取組にチャレンジしてくる。こしはばらばら、プラス要素とマイナス要素があり、景気は良くなるはならないが、そう悪くもならない。
		職業安定所（職員）	・小売業の苦戦状況を見ていると、個人消費の伸びが鈍化していると考えられ、雇用状況も良くなるはならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・一部受注が増加傾向の事業所もあるが、一時的なもので、夏場以降の受注状況については予測が難しいという回答があった。また、今が景気低迷の底との見方も多く、この状態がしばらく続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・年度決算を終えて、4月から減給実施などの影響が今後に出てくる。また、新型インフルエンザによるイベント中止や外出控えなども考えられ、売上に影響する。
		民間職業紹介機関（社員）	・年度決算を終えて、4月からの減給実施など、赤字が現実生活に影響を与えてくる。官公庁案件は人材各社が応札しており、安値の一途を辿っている。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・採用側の求人意欲の落ち込みが大きく、学生からの内定情報も例年より少ない。大手企業の採用動向をみても、これからの内定者数の増大は期待できない。地場中小企業の今後の採用動向を見守っている状況であるが、経営環境の悪化により、どの程度計画どおり採用が実現されるか、不透明な状況である。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・景気回復の見込みがなく、次回更新時期に終了者が出てくる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・前年度の第4四半期の求人件数が大幅に減少したため、先行きの見通しが全く立たない状況である。5月もゴールデンウィークを挟み、稼働日が少なく、6、7月の中元セールも現状では期待できない状況である。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込の状況を見ると、20年12月以降前年を大幅に上回っている状況にある。また、新規求人者の状況は19年10月以降前年割れが継続している状況にある。
		職業安定所（職員）	・需要減による生産の減少や厳しい雇用情勢が個人の消費意欲を冷え込ませ、更に景気後退が続くという悪循環になっている。製造業を始め、全体的な経済環境の悪化に伴い、一時休業や配置転換等の雇用調整を図る事業所が増えている。
		民間職業紹介機関（職員）	・景気が好転する要素が見当たらず、今後も企業が投資を差し控える可能性が高い。ただしメディカル、IT業界についてはさほど落ち込みもなく、前年同様の雇用となっている。
		民間職業紹介機関（支店長）	・年度末の契約終了者が前年比の2倍以上であった。4月以降も人材需要が上昇する気配は全くなく、第1四半期はほぼこのままの状態で推移する。

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・定額給付金の給付により、買物にも少しは良い消費意欲がみられるようになる。
		家電量販店（総務担当）	・5月15日より開始のエコポイントで対象商品の消費が良くなる。ただしそれが一過性のものにならないように注意を払う。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・定額給付金の給付が消費を刺激してくれることを期待したいが、県内では入域観光客数の減少による観光業の不振などマイナス要因もあり、依然として楽観視できる状況ではない。
		スーパー（販売企画担当）	・定額給付金に期待しているが、前年の小麦等の価格上昇の反動で、商品価格を下げたことによる売上の減少も本格化してくる。
		コンビニ（エリア担当）	・定額給付金の給付が開始されるが、大きな影響は無い。また、観光については、各旅行代理店、宿泊施設の努力により夏以降は横ばいとなる。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・今月に続き、5、6月共に稼働率は前年より10%程度落ち込む見込みである。
		旅行代理店（代表取締役）	・夏場の観光需要は円高等の影響で、例年と同程度か、やや下がる。秋の団体旅行シーズンに向けて何か対策を講じなければ、来以降もあまり期待できない。
		通信会社（店長）	・7月以降は新商品発売があり上向きが予想されるが、それまでは現状が続く。
		通信会社（サービス担当）	・携帯業界は飽和状態であり、使い勝手の良い新しい機能が出ないと伸びは期待できない。
	観光名所（職員）	・国内景気は当面厳しい状況が続く。県外からの入域観光客に頼る沖縄観光は、当面厳しい状況が予想される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（経営者）	・料金を下げたからといって来客数が増えるという状況にはない。ますます悪化することもありうる。
	やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・タスポ効果が一巡する夏以降、これといった販売促進は無く、タスポが導入された7～8月にかけてはその反動により、客数は前年に比べて減少する。他業種の価格競争が強まると更に客数は減少する。客単価はそう変わらないため、客数の増減が大きく影響する。
		衣料品専門店（経営者）	・回遊客が減少している。客単価、単価共に、前年比がここ数か月のなかで一番低い。これといって良い材料が見当たらない。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・厳しい時代なので、不採算部門の縮小・在庫の処分整理や人員整理等・資金繰りなど長期で再構築していく。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・連休期間は県外客の予約が結構入る時期であるが、今年は例年の3分の1しか予約が入っていない。ここにきて、新型インフルエンザの影響が懸念される。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・今後も急激な景気の好転は見込めず、5月以降も観光客数の減少が懸念される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・市の中心街では、空き店舗が出ると観光土産店が入るため、同業者が多くなる。さらに、日用品の買物客は外部の大型店に流れていくため、大変危機的状況になっていく。しかし定額給付金の給付によって、多少の持ち直しがあるのでは、との期待感もある。
	コンビニ（経営者）	・新規の競合店の影響が出て悪くなる。	
	その他専門店〔書籍〕（店長）	・現行の出版業界の形態ではこれ以上景気が良くなることは難しい。もつ少し地方の書店の声や中小の出版社の声を反映させて業界の活性化を図らなければ、大手出版社、大手書店しか生き残れない。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	窯業土石業（経営者）	・特に大型工事予定が無く、横ばいで推移する見通しである。
		建設業（経営者）	・新築、リフォーム共に引き合い、相談件数の動きが鈍い。
		広告代理店（営業担当）	・沖縄の基幹産業である観光業界が厳しい環境下にあるなかで、県内市場が活性化する可能性は限りなく低い。
		会計事務所（所長）	・主に企業の業績回復のため固定費である家賃の引き下げの動きは当面続く。
	やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・各種販売関係の数値が落ち込むなか、原油高騰の兆しが見え出しており、輸送コスト増が更なる景気の圧迫につながる可能性が高い。
	輸送業（代表者）	・土木関連の公共工事も終盤となり、学校関係を中心とした建築も終了となる。世界的金融不安に端を発した不況により、民間物件も期待は持たず、5月は残工事と在庫積み増し分で大きな変化は無いが、6月以降は不透明である。	
悪くなる	通信業（営業担当）	・仕事の案件が極端に減少している感を受ける。契約先の予算削減で、契約できても金額的には低い額の方角に進んでいる。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	-	-
	やや悪くなる	学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業の人事担当から、「採用はしたいが仕事が減少しているので採用するかしないか検討している」という話が頻繁に聞かれる。確実に求人数は減少していく。
		学校〔大学〕（就職担当）	・県内の観光業を中心としてこれから業況が悪化すると見込まれる。採用環境も順次悪化してくる。
悪くなる			